官報

昭和十九年四月四日
第五千百六十四號　火曜日

勅令

朕陸軍航空本部令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

昭和十九年四月一日

内閣總理大臣兼陸軍大臣　東條英機

勅令第二百二十七號

陸軍航空本部令中左ノ通改正ス

第四條第一項中「本部長」ノ次ニ「次長」ヲ加フ

第七條ノ三　次長ハ本部長ヲ輔佐シ航空本部ノ業務ヲ整理ス

第八條第二項ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參照）

昭和十年七月三十日公布　勅令第二百二十一號陸軍航空本部令抄錄

第八條　部長ハ本部長ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

總務部長ハ前項ノ外本部長ヲ輔佐シ航空本部ノ業務整理ニ任ズ

軍令

朕陸軍航空總監部令ヲ改定シ之ガ施行ヲ命ズ

御名御璽

昭和十九年四月一日

陸軍大臣　東條英機

軍令陸第六號

陸軍航空總監部令中左ノ通改正ス

第九條中「部長」ヲ「次長部長」ニ改ム

第九條ノ二　次長ハ陸軍航空總監ヲ輔佐シ陸軍航空總監部ノ業務ヲ整理ス

第十條第二項ヲ削ル

省令

◉外務省令第三號

移民保護法施行細則中左ノ通改正ス

昭和十九年四月四日

外務大臣　重光葵

第一條中「水産」ノ下ニ「（日本海「オホーツク」海及「ベーリング」海ニ於ケル「ソヴィエト」社會主義共和國聯邦ノ屬地ノ沿岸ニ於テ行フ水産ヲ除ク）」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◉大藏省令第四十八號

所得税法施行細則中左ノ通改正シ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十九年四月四日

大藏大臣　石渡莊太郎

別表所得調査委員會設置區域及定數表中名古屋財務局ノ部名古屋東税務署、名古屋西税務署及名古屋中税務署ノ項ヲ左ノ如ク改ム

名古屋東	名古屋市西區、中村區	九人
名古屋西	郡部	十人
名古屋中		五人
		十二人

◉文部省令第十五號

官立藥學專門學校規程左ノ通定ム

昭和十九年四月四日

文部大臣　子爵　岡部長景

官立藥學專門學校規程

第一條　官立藥學專門學校ニ於テハ專門學校令第一條ノ本旨ニ基キ藥學ニ關スル高等ノ教育ヲ施ス

第二條　官立藥學專門學校ノ修業年限ハ三年トス

第三條　官立藥學專門學校ノ授業ハ教授及修練トス

教授要綱及修練要綱ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　官立藥學專門學校ハ左ノ如シ

富山藥學專門學校

熊本藥學專門學校

第五條　官立藥學專門學校ノ學科目及其ノ授業時數ハ別表ニ依ル

學校長ハ特別ノ必要アルトキハ各學科目ノ全學年ヲ通ズル總授業時數ヲ減少セザル範圍内ニ於テ其ノ學科目ノ各學年ニ於ケル授業時數ヲ變更スルコトヲ得

第六條　官立藥學專門學校ノ卒業者若ハ之ト同等以上ノ學力アル者ニシテ藥學ニ關スル特殊事項ニ付更ニ研究セントスル者ハ之ヲ研究生トシテ二年以内在學セシムルコトヲ得

第七條　官立藥學專門學校ノ學科目中一學科目若ハ數學科目ヲ選擇シテ其ノ課程ヲ履修セントスル者ハ之ヲ選科生トシテ三年以内在學セシムルコトヲ得

附則

第八條　本令ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

第九條　富山藥學專門學校規程及熊本藥學專門學校規程ハ之ヲ廢止ス

第十條　本令施行ノ際現ニ第二學年以上ニ在學スル生徒ニ課スベキ學科目及其ノ授業時數ハ新舊規程ヲ斟酌シテ學校長之ヲ定ム

目次抄錄

◉勅令	陸軍航空本部令中改正	六五
◉軍令	陸軍航空總監部令中改正	六五
◉省令	移民保護法施行細則中改正	六五
	所得税法施行細則中改正	六五
	官立藥學專門學校規程	六五
	官立工業經營專門學校規程	六六
	第五改正日本藥局方中改正	六六
	農地調整施設補助規則中改正	六七
◉告示	金融統制團體令ニ依リ損害保障統制會理事任命	七一
	靜岡縣三島工業學校設置其他	七一
	進綱關配給統制規則ノ規定ニ依ル指定中改正其他	七二
	石炭統制會定款變更其他	七三
	倉庫營業者ノ營業所位置變更	七三
◉彙報	印刷局分課規程中改正	八七
	軍需省分課規程中改正	八七

明治二十五年三月二十一日第三種郵便物認可

別表

學科目	第一學年授業時數	第二學年授業時數	第三學年授業時數
道義	三五	三五	三五
人文	七〇	七〇	
理數	一〇五		
教練	一一二	一一二	一一二
體錬	七〇	七〇	七〇
生藥及藥用植物	七〇	三五	三五
分析化學	一〇五	七〇	
無機化學及鑛物	七〇		
有機化學	一〇五	一〇五	
厚生化學		七〇	一四〇
藥品製造工業		七〇	一四〇
物理化學		七〇	
藥局法及藥品試驗		三五	
調劑		七〇	
化學機械及製圖	七〇		
藥事法制			三五
藥效			一〇五
微生物			三五
國防化學			三五
電解化學			三五
合成化學			七〇
實驗實習	四二〇	四二〇	四九〇
增課	一〇五	一〇五	
計	一、三三七	一、三三七	一、三三七

備考　增課ノ時數ハ前表ノ學科目中藥學ニ關スル學科目ノ一學科目若ハ數學科目ニ配當シ又ハ之等ニ關スル學科目ヲ別ニ設ケ之ニ配當スルモノトス

◉**文部省令第十六號**

官立工業經營專門學校規程左ノ通定ム

昭和十九年四月四日

文部大臣　子爵　岡部　長景

第一條　官立工業經營專門學校規程ハ專門學校令第一條ノ本旨ニ基キ工業經營ニ關スル高等ノ教育ヲ施ス

第二條　官立工業經營專門學校ノ修業年限ハ三年トス

第三條　官立工業經營專門學校ノ授業ハ教授及修練トス

教授要綱及修練要綱ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　官立工業經營專門學校ハ左ノ加シ長崎工業經營專門學校

名古屋工業經營專門學校

横濱工業經營專門學校

第五條　官立工業經營專門學校ノ學科目及其ノ授業時數ハ別表ニ依ル

學校長ハ特別ノ必要アルトキハ各學科目ノ全學年ヲ通ズル總授業時數ヲ減少セザル範圍內ニ於テ其ノ學科目ノ各學年ニ於ケル授業時數ヲ變更スルコトヲ得

第六條　官立工業經營專門學校ノ卒業者若ハ之ト同等以上ノ學力アル者ニシテ工業經營ニ關スル特殊事項ニ付更ニ研究セントスル者ハ之ヲ研究生トシテ二年以內在學セシムルコトヲ得

第七條　官立工業經營專門學校ノ學科目中一學科目若ハ數學科目ヲ選擇シテ其ノ課程ヲ履修セントスル者ハ之ヲ選科生トシテ三年以內在學セシムルコトヲ得

附則

本令ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

別表

學科目	第一學年授業時數	第二學年授業時數	第三學年授業時數
道義	三五	三五	三五
國語	七〇	七〇	
教練	一一二	一一二	一一二
體錬	七〇	七〇	七〇
工業政策			
工業經營	七〇		
統計			
産業經濟	(七〇)	(七〇)	(七〇)
經濟	七〇	一七五	七〇
工場管理	一四〇	二一〇	
勤勞管理	(七〇)	(七〇)	
資材管理		(七〇)	
作業管理		(七〇)	
工業會計	一〇五	七〇	一七五
簿記及會計	(一〇五)	(七〇)	
原價計算			(一〇五)
監査			(七〇)
工業資材	七〇	七〇	
工業技術	一四〇	二一〇	二一〇
設計・製圖		七〇	七〇
理數			
數學	三一五	(一〇五)	
物理及化學		(二一〇)	
法律		七〇	七〇
外國語	一〇五	七〇	七〇
實驗實習	二四五	二四五	二四五
計	一、四〇七	一、四〇七	一、四〇七

◉**厚生省令第十五號**

昭和七年六月內務省令第二十一號第五改正日本藥局方中左ノ通改正ス

昭和十九年四月四日

厚生大臣　小泉　親彥

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十九年七月四日迄ニ製造又ハ輸入若ハ移入セラレタル醫藥品ニシテ本令ノ所定ニ適合セザル場合ニ於テ當該醫藥品ガ從來第五改正日本藥局方ニ收載セラレタルモノナルトキハ其ノ醫藥品ノ容器又ハ被包ニ「從來規格品」ノ五字ヲ明記シタルモノニ限リ昭和十九年十月四日迄ハ仍從前ノ規定ニ依リ、從來第五改正日本藥局方ニ收載セラレザリシモノナルトキハ昭和二十年一月四日迄ハ本令ノ規定ヲ適用セズ

凡例第八項中「ミクロン　μ」ノ次ニ「ミリミクロン　mμ」ヲ、「ミリグラム　mg」ノ次ニ「ガンマ　γ」ヲ加フ

一般試驗法第十五項中「クロロホルム10 cc ニ溶解シ」「ブロムヨード溶液25 cc」ヲ「クロロホルム或ハ四塩化炭素10 cc ニ溶解シ」「ブロムヨード溶液或ハ「クロルヨード溶液20 cc」ニ、「ヨードカリ溶液25 cc」ヲ「ヨードカリ溶液50 cc」ニ改ム

アセタルゾール第十項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

クエン酸第八項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

酒石酸第六項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

燒明礬第四項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

甘藷澱粉第五項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

六　單ニ澱粉ト記載セル場合ニハ本品ヲ用フルコトヲ得

甘藷澱粉ノ次ニ玉蜀黍澱粉ヲ加フ

Amylum Maydis

一　玉蜀黍澱粉ハ玉蜀黍ヨリ得タル澱粉ナリ

二　本品ハ白色無味無臭ノ粉末ニシテ冷水竝アルコール、ニ溶解セス五十分ノ水ニ攪和シ煮沸シテ放冷スレハ溷濁セル中性ノ糊液ヲ生ス

三　本品ヲ顯微鏡下ニ檢スレハ大小不同球形或ハ多角形ニシテ直徑3～35 μ ノ顆粒ヲナシ圓狀或ハ放射狀ノ紋理ヲ現ス

四　本品ノ試驗ハ來澱粉ノ條ニ掲クル所ニ同シ

五　單ニ澱粉ト記載セル場合ニハ本品ヲ用フルコトヲ得

馬鈴薯澱粉第五項中「用フヘシ」ヲ「用フルコトヲ得」ニ改ム

プロテイン銀第五項中「食塩粉末ノ過剩」ヲ「食塩0.2 g」ニ改ム

硫酸バリウム第八項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

次沒食子酸ヨード蒼鉛第八項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

塩化カルシウム「ノ分子式ヲ「$CaCl_2+2H_2O$ =147.0」ニ改メ第四項ノ末尾ニ「又ネスレル試藥ニ由テ變化スヘカラス」ヲ加ヘ第七項中「本品0.5 g」ヲ「本品0.3 g」ニ改ム

グルコン酸石灰第十三項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

カプセル」ノ次ニ「ビタミンA カプセル」ヲ加フ

Capsulae Vitamini A

ビタミンA カプセル

一　ビタミンA カプセル」ハ一箇中ビタミンA 油少クモ0.15 g ヲ含有スルモノナリ

二　本品ノ油液ノ試驗ハ「ビタミンA 油ノ條項ニ掲クル所ニ準據スヘシ

三　本品ハ其容器ニ本品一箇中ノ「ビタミンA 油含有量ヲ明記スヘシ

藥用炭第十一項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

エチル炭酸キニーネ第二項中「本品0.1 g ヲ稀ブロム水ニ溶解シ之ニ」ヲ「本品0.1 g ニ稀硫酸五六滴ヲ和シ水ヲ加ヘテ溶解シ100 cc トナシタルモノ5 cc ヲ取リ稀ブロム水1 cc ヲ加ヘ更ニ」ニ改ム

クエン酸鉄キニーネ第一項中「硫酸キニーネ十三分」ヲ「硫酸キニーネ十一・四二分」ニ改ム

塩酸キニーネ第四項中「染色セスシテ溶解スヘシ」ヲ「溶解スルニ微ニ藍色ノ螢石彩ヲ呈スルニ過クヘカラス」ニ改ム

硫酸キニーネ」ノ分子式ヲ「$(C_{20}H_{24}N_2O_2)_2 \cdot H_2SO_4+2H_2O$ =782.5」ニ、第一項中「白色」細微ノ風化シ易キ針狀結晶」ヲ「白色針狀結晶或ハ結晶性粉末」ニ、「二十五分ノ熱湯」ヲ「二十分ノ熱湯」ニ、第三項中「染色セスシテ溶解スヘシ」ヲ「溶解スルニ微ニ藍色ノ螢石彩ヲ呈スルニ過クヘカラス」ニ、第五項中「本品ノ40°～50°ニ於テ充分風化シタルモノ2 g ヲ試驗管ニ取リ」ヲ「本品2 g ニ」ニ、第六項中「本品0.2 g ヲ「本品0.5 g ニ「T0.032 g」ヲ「0.023 g」ニ、第七項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

タンニン酸キニーネ第一項中「硫酸キニーネ二分」ヲ「硫酸キニーネ一・七五七分」ニ改ム

キノヨヂン第九項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

拘水クロラール」ノ次ニ「クロラミンBヲ加フ

Chloraminum B

クロラミン B

$C_6H_5 \cdot SO_2NClNa+2H_2O$ =249.6

一　クロラミンBハ白色結晶性粉末ニシテ殆ト臭氣ナク水、アルコール又グリセリン」ニ溶解シ「クロロホルム、エーテル又ベンゾール」ニ溶解セス

二　本品ハ28%以上ノ有力塩素(Cl=35.46)ヲ含有ス

三　本品ノ性質及試驗ハ「クロラミンTノ條項ニ準據スヘシ但シ第七項ニ於テ十分定規チオ硫酸ソーダ液ノ消費量ハ少クモ29.5 cc ナラサルヘカラス

四　堰中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

クロラミン」ノ藥品名ヲ「Chloraminum T」

クロラミンT」ニ、第一項中「クロラミン」ヲ「クロラミンT」ニ、第七項中「本品5 g ヲ水ニ溶解シテ250 cc トナシ其ノ25 cc ニ」ヲ「ヨードカリ1 g 及塩酸1 cc ヲ和シ」ヲ「本品0.5 g ヲ內容約200 cc ノ共栓壜ニ取リ水100 cc ヲ加ヘテ溶解シ」ヲ「ヨードカリ1 g 及塩酸1 cc ヲ和シ栓ヲ施シテ輕ク搖動シツツ十分間放置シ」ニ改ム

クロラミン」ノ次ニ「クロラミンXヲ加フ

Chloraminum X

クロラミン X

$(CH_3)_2 \cdot C_6H_3 \cdot SO_2NClNa+2H_2O$ =277.6

一　クロラミンXハ白色結晶性粉末ニシテ微ニ塩素樣ノ臭氣ヲ有ス水、アルコール又グリセリン」ニ溶解シ「クロロホルム、エーテル又ベンゾール」ニ溶解セス

二　本品ハ25%以上ノ有力塩素(Cl=35.46)ヲ含有ス

三　本品ノ性質及試驗ハ「クロラミンTノ條項ニ準據スヘシ

四　堰中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

クエン酸銅第五項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

ヂウレチン第十一項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

ゴム絆創膏第一項中「布」ヲ「布又ハ紙」ニ改ム

亞鉛華ゴム絆創膏第一項中「布」ヲ「布又ハ紙」ニ改ム

單鉛硬膏第一項中「落花生油」ヲ「落花生油又ハ之ニ對應スル他ノ植物油」ニ改ム

塩酸エフェドリン第九項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

キナエキス第四項中「中和液5 cc ニ稀ブロム水(1+4)」ヲ「中和液1 cc ニ水4 cc 及稀ブロム水」ニ改ム

酵母エキス」ヲ削ル

藥用酵母第一項ヲ左ノ如ク、第二項中「淡褐色ノ粉末」ヲ「類白色乃至類褐色ノ中末」ニ改メ第五項及第七項ヲ削リ第三項、第四項及第六項ヲ順次一項ツツ繰下ケ第三項及第六項トシテ左ノ各項ヲ加ヘ第八項ヲ左ノ如ク改ム

藥用酵母ハ「ビタミンB_1」ヲ含有スル乾燥酵母ナリ

三　本品1 g ハ少クモ70 γ ノ純ビタミンB_1ヲ含有ス

六　本品1.43 g ヲ內容100 cc ノ測容壜ニ取リ稀塩酸1 cc 及水80 cc ノ混液ヲ加ヘ(80°～85°ノ重湯前中ニ三十分間屢々振盪シタル後放冷シ冷後水ヲ加ヘテ全量ヲ100 cc トナシ乾燥濾紙ヲ用ヒテ濾過シテ得タル濾液1 cc ヲ甲乙二箇ノ內容約20 cc ノ共栓硝子遠心管ニ取リ各醋酸ソーダ緩衝液4 cc 及水4 cc ヲ加ヘ次ニ酵素液1 cc 及トルオール五滴ヲ添加シ37°ノ溫ニ於テ十二時間放置スヘシ別ニ純ビタミン$B_1$0.01 g ヲ內容100 cc ノ測容壜ニ秤取シ水ヲ加ヘテ溶解シ100 cc トナシ更ニ該液10 cc ヲ內容100 cc ノ測容壜ニ取リ水ヲ加ヘテ100 cc トナシタル溶液(本溶液1 cc 中ニハ純ビタミンB_1γ ヲ含有ス)1 cc ヲ前記同樣ノ遠心管丙ニ取リ水ヲ加ヘテ10 cc トナスヘシ次テ甲乙及丙管ニ夫々稀塩酸0.1 cc 及燒芒硝3 g ヲ加ヘ60°～70°ニ加溫シテ溶解シ溫ニ乘シテ各ブタノール5 cc ヲ加ヘ輕ク振盪シ必要アラハ遠心分離ヲ行ヒ分離シタル「ブタノール層ヲ「ビ・ベット」ヲ用ヒテ吸引除去シ水溶液ヲ放冷スヘシ冷後甲管ニハ1%赤血塩溶液0.2 cc ヲ加ヘ甲乙及丙管ニ夫々30%苛性ナトロン溶液3 cc ヲ混和シ二分間放置シ各ブタノール5 cc ヲ添加シ二分間激シク振盪シタル後ブタノール層ヲ分離スヘシ次テ「ビ・ベット」ヲ用ヒテ甲管ヨリ「ブタノール液5 cc ヲ取リ之ニ「ブタノール5 cc ヲ加ヘ別ニ乙及丙管ヨリ夫々ブタノール液5 cc ヲ取リテ合シ比較液トナシブタノール液ニ於テ兩液ニ紫外線ヲ照射シテ發スル螢光ヲ比較スルニ甲管ヨリ取リタル液ノ發スルモノハ比較液ノ發スルモノヨリ弱カルヘカラス

八　堰中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

硫酸鉄第七項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

乾燥硫酸鉄第八項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

ヒヨス葉ノ次ニ決明葉ヲ加フ

Folium Ketumei

決明葉

一　決明葉ハ Cassia Tora Linné (Hビスグサ)ノ葉ヲ採集シ乾燥セルモノナリ

二　本品ハ類黃綠色倒卵形ヲナシ長サ多クハ3～4 cm ニシテ短キ葉柄ヲ有シ鈍頭ナリ屢々其碎片ヲ混ス

三　本品ノ橫斷面ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ柵狀組織ヲ認メス又其ノ兩面ノ上皮ハ多細胞性ノ毛茸ヲ帶フ

四　本品ハ殆ト無味無臭ナリ

五 本品ノ中末10gヲトリ「アルコール」100ccヲ加ヘ還流冷却器ヲ付シ重湯煎上ニテ三時間沒出シ放冷後濾過シ其濾液ヨリ「アルコール」ヲ溜去シ殘留物ヲ水20ccヲ加ヘ不溶物ヲ濾過シ濾液ヲ蒸發乾涸シタル後其殘渣ヲ更ニ「アルコール」3ccニ溶解シ之ニ「マグネシウム」末少量及塩酸數滴ヲ和スルニ類赤褐色ヲ呈セサルヘカラス

六 本品ヲ灰化スルニ15%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

ホルマリン」ノ次ニ果糖ヲ加フ

Fructosum

果糖

$C_6H_{12}O_6$ = 180.1

一 果糖ハ無色ノ結晶或ハ白色結晶性粉末ニシテ臭氣ナク味甘ク引濕性ヲ有シ○・五分ノ水竝十五分ノ「アルコール」ニ溶解ス

二 本品ノ水溶液(1+19)ハ「フェーリング」溶液ト共ニ煮沸スレハ赤色ノ沈澱ヲ生ス

三 本品0.5gヲ水10ccニ溶解シ「レゾルシン」0.1g及塩酸1ccヲ加ヘ三分間重湯煎中ニ熱スルニ紅色ヲ呈ス

四 本品ノ除濕器内ニ於テ乾燥シタルモノ1gヲ水ニ溶解シ10ccトナシタルモノハ旋光度約+9.2°ナリ

五 本品ノ水溶液(1+19)ハ無色澄明ニシテ中性ノ反應ヲ微シ硫化ソーダ溶液ニ由テ又硝酸ヲ以テ酸性トナシタル後硝酸バリウム溶液ニ由テ變化セス又硝酸銀溶液ニ由テ微蛋白石濁ヲ起スニ過クヘカラス又アンモニア水ヲ和シタル後蓚酸アンモン溶液ニ由テ變化スヘカラス

六 本品ノ水溶液ハ「ヨード」溶液一滴ニ由テ黄色ヲ呈セサルヘカラス

七 本品ヲ除濕器内ニ乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト2%ニ過クヘカラス

八 本品ヲ燃化スルニ0.1%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

九 堰中ニ容レ密栓シ貯フヘシ

葡萄糖第一項中「一・五分ノ水竝約十分」ヲ「三分ノ水竝約十二分」ニ第十項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

精製グッタペルカ」ノ次ニ延命草ヲ加フ

Herba Amethystanthi

延命草

延命草ハ Amethystanthus Japonicus Nakai (ヒキオコシ)ノ葉葉ヲ乾燥セルモノナリ

一 本品ハ莖及之ニ對生セル葉ヨリ成リ全体毛茸ヲ帶フ莖ハ淡黄褐色方形ナリ本品ノ葉ハ廣卵形ヲナシ上端尖鋭ニシテ長サ12cm幅5cmニ至ル葉柄ハ長ク葉基ハ楔狀ヲナシ葉柄ニ沿ウテ狹細トナリ邊緣ハ鋸齒ヲ有ス葉体ハ菲薄ニシテ皺出シ上面ハ帶褐綠色下面ハ其色較々薄シ葉ノ兩面ニ3~5細胞ヨリ成ル細毛竝數細胞ヨリ成ル腺鱗ヲ疎生シ下面葉脈上ニハ細毛ヲ密生ス

三 本品ノ中末0.5gニ水50ccヲ加ヘ重湯煎上ニ三十分間加熱シタル後濾過シ其濾液10ccニ水300ccヲ加ヘタルモノハ塩酸キニーネ0.01gヲ水300ccニ溶解シタル液ヨリ强キ苦味ヲ有セサルヘカラス

四 本品ヲ灰化スルニ9%以上ノ固性物ヲ殘留スヘカラス

消毒用昇汞第三項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

浸劑ノ次ニ注射劑「ビタミンB1注射液及ビタミンC注射液」ヲ加フ

Injectiones

注射劑

一 注射劑ハ藥品ノ水性又ハ油性ノ溶液或ハ乳劑ヲ滅菌セルモノナリ

二 本劑ハ特ニ記載セル外一定重量ノ藥品ヲ溶劑ニ溶解シ一定容量トナシ製スヘシ

一 本劑ヲ製スルニ用フル水ハ用ニ臨ミテ再蒸溜シタルモノ又油ハ殆ト中性ノ滅菌植物油ヲ用フヘシ

四 本劑ノ溶液ハ澄明ニシテ異物ヲ夾雜セサルヘカラス

五 本劑ハ滅菌セル堰中ニ容レ硝子栓又ハ「ゴム栓ヲ以テ密閉シ若クハ硬質硝子器中ニ熔閉シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Injectio Vitamini B1

ビタミンB1注射液

ビタミンB1注射液ハ澄明ノ水溶液ニシテ特異ノ臭味ヲ有シ酸性ノ反應ヲ微ス

二 本品1ccハ少クモ1000γノ純ビタミンB1ヲ含有ス

三 本品ハ不快ナル或ハ變敗セル臭味ヲ有スヘカラス

四 本品1ccヲ取リ强ビタミンB1末第五項ニ掲クル方法ニ據リ試驗スルニ同一ノ成績ヲ示ササルヘカラス

五 硬質硝子器中ニ熔閉シ光ヲ遮リ滅菌シテ貯フヘシ

Injectio Vitamini C

ビタミンC注射液

一 ビタミンC注射液ハ「エル・アスコルビン酸」ノ「ナトリウム」塩ヲ水ニ溶解セル無色澄明ノ液ニシテ中性反應ヲ微ス

二 本品1ccハ「ビタミンC 0.05g」ヲ含有ス

二 本品4ccニ水6ccヲ和シタルモノハ「ビタミンC第四項及第五項ニ掲クル方法ニ據リ試驗スルニ同一ノ成績ヲ示ササルヘカラス

四 本品1ccニ水1ccヲ加ヘ醋酸ウラニル溶液二三滴ヲ和スルニ赤褐色ヲ呈シ更ニ之ニ「ナトロン」滷液0.5ccヲ加フルニ類黄色ヲ呈セサルヘカラス

五 本品1ccニ2%メタ燐酸溶液又ハ0.25%ロダンカリ溶液20ccヲ加ヘ十分定規ヨード液ヲ滴加シテ持續スル藍色ヲ呈スルニ至ルニハ其5.57~5.68ccヲ費ササルヘカラス(標示藥澱粉溶液)

六 硬質硝子器中ニ熔閉シ酸素ヲ除去シ滅菌シテ貯フヘシ

酒石酸カリソーダ第八項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

塩化カルシウム液ヲ削ル

塩酸エピレナミン液ノ「ラテン名「Liquor Epirenamini hydrochlorici」ヲ「Injectio Epinephrini hydrochlorici」ヲ「Liquor Orthioxyphenylethanolmethylamini hydrochlorici」ヲ「Injectio Orthodioxyphenylethanolmethylamini hydrochlorici」ニ改ム

滅菌ゼラチン液ノ「ラテン名「Liquor Gelatinae sterilisatus」ヲ「Injectio Gelatinae sterilisata」ニ改ム

ロック液ノ「ラテン名「Liquor Lockei」ヲ「Injectio Lockei」ニ、第一項中「塩化カルシウム0.46g」ヲ「塩化カルシウム0.15g」ニ改ム

生理食塩水ノ「ラテン名「Liquor Natrii chlorati physiologicus」ヲ「Injectio Natrii chlorati physiologica」ニ改ム

リンゲル液ノ「ラテン名「Liquor Ringeri」ヲ「Injectio Ringeri」ニ、第一項中「塩化カルシウム0.2g」ヲ「塩化カルシウム0.134g」ニ改ム

リンゲル液ノ次ニ「ビタミンB1液」ヲ加フ

Liquor Vitamini B1

ビタミンB1液

一 ビタミンB1液ハ澄明ノ水溶液ニシテ特異ノ臭味ヲ有シ酸性ノ反應ヲ微ス

二 本品1ccハ少クモ70γノ純ビタミンB1ヲ含有ス

三 本品ハ不快ナル或ハ變敗セル臭味ヲ有スヘカラス

四 本品1.43ccヲ内容100ccノ測容堰ニ取リ水ヲ加ヘテ100ccトナシ其1ccヲ取リ藥用酵母第六項ニ掲クル方法ニ據リ試驗スルニ同一ノ成績ヲ示ササルヘカラス

五 堰中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

アンモニア擦劑第一項中「胡麻油」ヲ「胡麻油又ハ之ニ對應スル他ノ植物油」ニ改ム

石灰擦劑第一項中「胡麻油」ヲ「胡麻油又ハ之ニ對應スル他ノ植物油」ニ改ム

過酸化マグネシア第十項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

薄荷腦第六項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

メチレン青第六項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

炭酸ソーダ第七項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

乾燥炭酸ソーダ第六項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

クエン酸ソーダ第十一項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

燐酸ソーダ第八項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

サリチル酸ソーダ第六項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

フェノールスルホン酸ソーダ第六項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

芒硝第六項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

乾燥芒硝第五項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

苛性ナトロン第四項中「本品ノ水溶液」ヲ「本品ノ水溶液(1+19)」ニ改ム

ノイホルム第八項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

カンフルオレフ油ノ「ラテン名「Oleum Camphorati」ヲ「Injectio Olei Camphorati」ニ改メ第一項中「又ハ杏仁油」ヲ「杏仁油又ハ玉蜀黍油」ニ改ム

クロロホルム油第一項中「糠油」ヲ「糠油又ハ之ニ對應スル他ノ植物油」ニ改ム

肝油第二項、第三項及第七項ヲ左ノ如ク改ム

二 本品ハ黄色或ハ金黄色澄明ノ液ニシテ微ニ特異ノ臭氣ヲ有シ味緩和ニシテ酸度3以下ナリ

三 本品1g及標準肝油0.2gヲ各内容10ccノ測容堰ニ秤取シ20°ニ於テ純クロロホルム」ヲ加ヘテ10ccトナシ兩溶液各0.2ccヲ各内徑約0.8cmノ小試驗管ニ取リ之ニ三塩化アンチモンクロロホルム溶液各2ccヲ混和シ三十秒以内ニ於テ兩溶液ヲ比較スルニ本品ノ呈色度ハ標準肝油ヨリ弱カルヘカラス

七 堰中ニ容レ殆ト全滿シ或ハ酸素ヲ除去シ密栓シテ冷暗所ニ貯フヘシ

肝油ノ次ニ强肝油ヲ加フ

Oleum Jecoris fortius

强肝油

强肝油ハ水産動物ノ肝臓ヨリ得タル單一又ハ混合脂肪油ナリ

二 本品ハ黄色澄明ノ液ニシテ酸度2以下ナリ

三 本品0.2gヲ取リ肝油ノ條第三項ニ掲クル方法ニ據リ試驗スルニ同一ノ成績ヲ示ササルヘカラス

四 堰中ニ容レ殆ト全滿シ或ハ酸素ヲ除去シ密栓シテ冷暗所ニ貯フヘシ

肝油ノ次ニ玉蜀黍油ヲ加フ

Oleum Maydis

玉蜀黍油

一 玉蜀黍油ハ Zea Mays Linné (タウモロコシ)ノ胚芽ヲ壓搾シテ得タル脂肪油ナリ

二 本品ハ淡黄色ノ液ニシテ微ニ特異ノ臭氣ヲ有シ味緩和ニシテ敗油性ナラス零下5°ニ於テハ凝結シテ帶黄白色軟膏樣ノ塊トナル比重0.914~0.924、ヨード數105~120°酸度5以下、不鹼化物2%以下ナリ

三 本品5ccニ「アルミアルコール」及硫黄ノ二硫化炭素溶液(1+99)各5ccヲ和シ還流冷却器ヲ附シテ十五分間重湯煎中ニ熱スルニ赤色ヲ呈スヘカラス更ニ該二硫化炭素溶液5ccヲ追加シテ尙十五分間熱スルモ亦然リ

チミアン油ノ次ニ「ビタミンA油ヲ加フ

Oleum Vitamini A

ビタミンA油

一 ビタミンA油ハ水産動物ノ肝臓ヨリ得タル脂肪油或ハ其ビタミン濃縮分ヲ肝油又ハ植物油ニ溶解シタルモノナリ

二 本品ハ黄色又ハ類褐色澄明或ハ溷濁セル液ニシテ酸度3以下ナリ

三 本品0.5gハ「クロロホルム」8ccニ澄明ニ混和セサルヘカラス

四 本品0.06gヲ取リ肝油ノ條第三項ニ掲クル方法ニ據リ試驗スルニ同一ノ成績ヲ示ササルヘカラス

五 堰中ニ容レ殆ト全滿シ或ハ酸素ヲ除去シ密栓シテ冷暗所ニ貯フヘシ

チンク油第一項中「糠油」ヲ「糠油又ハ之ニ對應スル他ノ植物油」ニ改ム

バンクレアチン第七項中「其溶液15cc」ヲ「其溶液20cc」ニ改ム

フェノール フタレイン第一項中「熔融點255°~258°」ヲ「熔融點254°~258°」ニ改ム

塩酸キニーネ丸ヲ削リ「ロカイヤラツパ丸」ノ次ニ硫酸キニーネ丸ヲ加フ

Pilulae Chinini sulfurici

硫酸キニーネ丸

一 硫酸キニーネ丸ハ

硫酸キニーネ 五分

蜂蜜又ハ澱粉 適宜量

二 本品ハ一箇中硫酸キニーネ0.05gヲ含有ス

ヲ取リ研和シ丸子トナシ製スヘシ

規鉄丸ノ條中「塩酸キニーネ」ヲ「硫酸キニーネ」ニ改ム

炭酸グアヤコール丸ノ次ニ「ヨードカリ丸」ヲ加フ

Pilulae Kalii Jodati

ヨードカリ丸

一 ヨードカリ丸ハ

ヨードカリ 五分

甘草細末 五分

龍膽中末又ハ當藥散 適宜量

ヲ取リ水ヲ加ヘテ研和シ約0.15gノ重量ヲ有スル丸子トナシ製スヘシ

二 本品ハ一箇中ヨードカリ0.5gヲ含有ス

小兒散第三項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

複方大黄散第三項中「堰中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

健胃散ノ次ニ「ビタミンB1末、强ビタミンB1末及ビタミンC末」ヲ加フ

Pulvis Vitamini B1

ビタミンB1末

一 ビタミンB1末ハ類白色乃至類褐色ノ中末ニシテ微ニ特異ノ臭味ヲ有シ水ヲ以テ濡ホセル青色リトマス紙ヲ赤變ス

二 本品1gハ少クモ70γノ純ビタミンB1ヲ含有ス

三 本品ハ不快ナル或ハ變敗セル臭味ヲ有スヘカラス

四 本品ノ試驗ハ藥用酵母第六項ニ準據スヘシ但シ酸性白土ニ吸着シテ製シタルモノニ在リテハ其0.143gヲ乳鉢ニ取リ燒芒硝0.867gヲ加ヘテ善ク混和シタル後其0.1gヲ取リ水10ccヲ加ヘテ試驗スヘシ

五 堰中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Pulvis Vitamini B1 fortior

强ビタミンB1末

一 强ビタミンB1末ハ

純ビタミンB1 一分

澱粉又ハ乳糖 二百九十九分

ヲ取リ混和シ製スヘシ

二 本品ハ白色ノ粉末ニシテ特異ノ臭味ヲ有シ水ヲ以テ濡ホセル青色リトマス紙ヲ赤變ス

三 本品ハ0.15γヲ含有ス

ビタミンB1ヲ含有ス

四 本品ハ不快ナル或ハ變敗セル臭味ヲ有スヘカラス

五 本品0.15gヲ内容500ccノ測容堰ニ取リ稀塩酸1cc及水80ccノ混液ヲ加ヘ80°~85°ノ重湯煎中ニ三十分間屢々振盪シタル後放冷シ後水ヲ加ヘテ全量ヲ500ccトナシ必要アラハ乾燥濾紙ヲ用ヒテ濾過シタル後其1ccヲ夫々甲乙二箇ノ内容約50ccノ共栓硝子遠心管ニ取リ水ヲ加ヘテ10ccトナスヘシ別ニ藥用酵母第六項ニ掲クル純ビタミンB1ノ溶液1ccヲ前記同樣ノ遠心管丙ニ取リ水ヲ加ヘテ10ccトナスヘシ次テ甲乙及丙管ニ夫々稀塩酸0.1cc及燒芒硝8gヲ加ヘ60°~70°ニ加溫シテ溶解シ冷後甲及丙管ニ各0.1%赤血塩溶液0.2cc宛ヲ加ヘ甲乙及丙管ニ夫々30%苛性ナトロン溶液3ccヲ混和シ二分間放置シ各ブタノール7ccヲ添加シ二分間激シク振盪シタル後ブタノール層ヲ遠心分離スヘシ次テ「ピペット」ヲ用ヒテ甲管ヨリ「ブタノール」液5ccヲ取リ之ニ「ブタノール」5ccヲ加ヘ別ニ乙及丙管ヨリ夫々ブタノール液5ccヲ取リテ合シ比較液トナシ暗所ニ於テ兩液ニ紫外線ヲ照射シテ發スル螢光ヲ比較スルニ甲管ヨリ取リタル液ノ發スル螢光ノ方ハ比較液ノ發スルモノヨリ弱カルヘカラス

六 堰中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Pulvis Vitamini C

ビタミンC末

一 ビタミンC末ハ

一分

澱粉 十九分

ヲ取リ混和シ製スヘシ

二 本品ハ白色ノ粉末ニシテ臭氣ナク酸味ヲ有シ水ヲ以テ潤ホセル青色試驗紙ヲ赤變ス

三　本品1gハ少クモ0.05gノ「ビタミンC」ヲ含有ス

四　本品5gニ水15ccヲ加ヘ約一分間振動シ濾過シテ得タル液ハ「ビタミンC」第四項及第五項ニ掲クル方法ニ據リ試驗スルニ同一ノ成績ヲ示ササルヘカラス

五　本品2gニ水5ccヲ加ヘ約一分間振動シ濾過シテ得タル液2ccヲ十分定規ナトロン液ヲ用ヒテ中和シ醋酸ウラニル溶液二三滴ヲ和スルニ赤褐色ヲ呈シ更ニ之ニナトロン滴液0.5ccヲ加フルニ類黄色ヲ呈セサルヘカラス

六　本品5g＝2％メタ燐酸溶液又ハ0.25％ロダンカリ溶液約40ccヲ加ヘ一分間振盪シテ濾過シ此操作ヲ反覆シテ得タル濾液ヲ合シ「メタ燐酸溶液又ハ「ロダンカリ溶液ヲ以テ濾紙上ノ殘留物及濾紙ヲ洗滌シ洗液ヲ濾液ニ合シテ全量ヲ100ccトナス、ヘシ此液ノ20ccヲ取リ十分定規ヨード液ヲ滴加シテ持續スル藍色ヲ呈スルニ至ルニハ少クモ其5.57ccヲ費ササルヘカラス（標示藥澱粉溶液）

七　壜中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

ビオクタニン青第七項中「壜中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

溶性サッカリン第九項中「壜中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

甕用石鹸第六項中「壜中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

スルピリン第九項中「壜中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

グリセリン坐劑第二項中「約3g」ヲ「約2g」ニ改ム

塩酸キニーネ錠ヲ削リ次硝酸蒼鉛錠ノ次ニ硫酸キニーネ錠ヲ加フ

Tabulettae chinini sulfurici
硫酸キニーネ錠

一　硫酸キニーネ錠ハ

硫酸キニーネ	十分
澱粉	五分
乳糖	三分
精製タルク	適宜量

ヲ取リ混和シ製スヘシ

二　本品ハ一箇中硫酸キニーネ0.1gヲ含有ス

Tabulettae Faecis medicinali
藥用酵母錠

一　藥用酵母錠ハ藥用酵母ヲ取リ製スヘシ

二　本品ノ試驗ハ藥用酵母ノ條項ニ準據スヘシ

三　本品ハ其容器ニ本品一箇ノ重量ヲ明記スヘシ

四　器中ニ密閉シ光ヲ遮リ貯フヘシ

昇汞錠第三項中「壜中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

オキシシアン水銀錠第三項中「壜中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

ヨードカリ錠第三項中「注意」シテ「ヲ削ルトタキナ錠第三項中「壜中ニ容レ密栓シ」ヲ「器中ニ密閉シ」ニ改ム

トタキナ錠ノ次ニ「ビタミンB1錠、強ビタミンB1錠及ビタミンC錠ヲ加フ

Tabulettae Vitamini B1
ビタミンB1錠

一　ビタミンB1錠ハ「ビタミンB1末ヲ取リ製スヘシ

二　本品ノ試驗ハ「ビタミンB1末ノ條項ニ準據スヘシ

三　本品ハ其容器ニ本品一箇ノ重量ヲ明記スヘシ

四　器中ニ密閉シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Tabulettae Vitamini B1 fortiores
強ビタミンB1錠

一　強ビタミンB1錠ハ強ビタミンB1末ヲ取リ製スヘシ

二　本品ノ試驗ハ強ビタミンB1末ノ條項ニ準據スヘシ

三　本品ハ其容器ニ本品一箇ノ重量ヲ明記スヘシ

四　器中ニ密閉シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Tabulettae Vitamini C
ビタミンC錠

一　ビタミンC錠ハ「ビタミンC末ヲ取リ製スヘシ

二　本品ノ試驗ハ「ビタミンC末ノ條項ニ準據スヘシ

三　本品ハ其容器ニ本品一箇ノ重量ヲ明記スヘシ

四　器中ニ密閉シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Unguentum Paraffini
パラフィン軟膏

一　パラフィン軟膏ハ「パラフィン」分及流動パラフィン約四分ヲ取リ研和シ製スヘシ

二　本品ハ白色透映全質均等ノ軟塊ナリ

木蠟軟膏第一項中「糠油又ハ大豆油」ヲ「糠油又ハ之ニ對應スル他ノ植物油」ニ改ム

罩軟膏第一項中「胡麻油又ハ大豆油」ヲ「胡麻油又ハ之ニ對應スル他ノ植物油」ニ改ム

強發泡膏第一項中「落花生油」ヲ「落花生油又ハ之ニ對應スル他ノ植物油」ニ改ム

弱發泡膏第一項中「落花生油又ハ之ニ對應スル他ノ植物油」ヲ「落花生油又ハ之ニ對應スル他ノ植物油」ニ改ム

ベプシン酒ノ次ニ純ビタミンB1及ビタミンCヲ加フ

Vitaminum B1 purum
純ビタミンB1

一　純ビタミンB1ハ無色ノ結晶或ハ白色結晶性粉末ニシテ微ニ特異ノ臭氣ヲ有シ約一分ノ水ニ容易ニ又グリセリン竝アルコール」ニ溶解シテ酸性ノ反應ヲ徴シ純アルコール、エーテル竝ベンゾール」ニ溶解シ難シ

二　本品ノ乾燥セルモノハ94％以上ノ純ビタミンB1（$C_{12}H_{17}ON_4SCl \cdot HCl = 337.1$）ヲ含有ス

三　本品ノ水溶液（1＋49）ハ昇汞溶液ニ由テ白色、ヨード溶液ニ由テ赤褐色又マイエル試藥ニ由テ帶黄白色ノ沈澱ヲ、硝酸ヲ以テ酸性トナシタル後硝酸銀溶液ニ由テ白色絮狀ノ沈澱ヲ生ス

四　本品約0.005gハ醋酸鉛溶液及ナトロン滴液ノ同容量混液2ccニ溶解スルニ黄色ヲ呈シ重湯煎中ニ熱スレハ褐色ニ變シ放置スレハ黑褐色ノ沈澱ヲ生ス

五　本品約0.005gヲ約七倍ニ稀釋セル「ナトロン滴液5cc及赤血塩溶液1ccニ溶解シ之ニ「ブタノール5ccヲ加ヘ二分間激シク振盪シ放置シテ液ヲ二層ニ分離セシメ上方ヨリ光線ヲ受ケ光線ト直角ノ方向ヨリ上層液ノ頂部ヲ望ムニ紫藍色ノ螢光ヲ認メサルヘカラス此螢光ハ液ヲ微ニ酸性トナスニ消滅シ更ニ「アルカリ性トナスニ再現ス

六　本品ノ水溶液（1＋49）ハ苦味ヲ有セス「ナトロン滴液5ccヲ混和シテ溫ムルニ「アンモニア」ヲ發生スヘカラス又稀塩酸二三滴及塩化バリウム溶液ニ由テ五分間以内ニ溷濁スヘカラス又醋酸三滴ヲ加ヘタル後硫化ソーダ溶液三滴ニ由テ變化スヘカラス

七　本品ヲ豫メ眞空硫酸除濕器中ニ二十四時間以上乾燥シタル後其0.2gヲ秤取シ新タニ煮沸シ冷却シタル水20ccニ溶解シ十分定規カリ液ヲ滴加シテ中和スルニハ計液5.60～6.00ccヲ費ササルヘカラス（標示藥フェノールフタレイン溶液）

八　本品0.2gヲ眞空硫酸除濕器中ニ二十四時間以上乾燥スルニ其重量ヲ減失スルコト5％ニ過クヘカラス又之ニ硫酸數滴ヲ加ヘテ燃化スルニ秤定シ得ヘキ固性物ヲ殘留スヘカラス

九　壜中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Vitaminum C
Acidum ascorbinicum
ビタミンC
ヰル・アスコルビン酸

$C_6H_8O_6 = 176.1$

一　ビタミンCハ白色或ハ微ニ黄色ヲ帶フル結晶性粉末ニシテ臭氣無ク酸味ヲ有シ乾燥氣中ニ於テハ略々安定ナルモ水溶液ハ漸次分解ス水ニ容易ニ又アルコール」ニ溶解シテ酸性ノ反應ヲ徴シ「エーテル、クロロホルム、ベンゾール竝石油エーテル」ニ溶解シ難ク189°～192°ニ於テ熔融分解ス

二　本品1gヲ新タニ煮沸シ冷却シタル水ニ溶解シ20°ニ於テ50ccトナシタルモノハ比旋光度＋22°～＋28°、同シク「メタノール溶液ノ比旋光度ハ＋50°～＋51°ナリ

三　本品ハ99％以上ノ純ヰル・アスコルビン酸（$C_6H_8O_6 = 176.1$）ヲ含有ス

四　本品ノ水溶液（1＋49）ハ「フェーリング溶液、過マンガン酸カリ溶液竝硝酸銀溶液ヲ還元ス

五　本品ノ水溶液（1＋49）ハ硫化ソーダ溶液ニ由テ變化スヘカラス

六　本品ヲ減壓硫酸除濕器中ニ少クモ三時間乾燥シタル後其0.1gヲ取リ2％メタ燐酸溶液又ハ0.25％ロダンカリ溶液ニ溶解シ100ccトナシ其50ccヲ取リ十分定規ヨード液ヲ適加シテ持續スル藍色ヲ呈スルニ至ルニハ少クモ其5.62ccヲ費ササルヘカラス（標示藥澱粉溶液）

七　壜中ニ容レ密栓シ光ヲ遮リ貯フヘシ

Acidum metaphosphoricum
メタ燐酸 HPO_3

無色硝子樣ノ塊片又ハ小挺子ナリ

試藥「ブルシン」ノ次ニ「ブタノール」ヲ加フ

Butanolum
ブタノール $CH_3(CH_2)_3OH$

無色澄明ノ液ニシテ比重約0.81、沸騰點115°～118°ナリ本品ヲ紫外線下ニ檢スルニ螢光ヲ認ムヘカラス

試藥純クロロホルム」ノ次ニ塩素ヲ加フ

Chlorum
塩素 Cl_2

塩素ガス」ヲ水洗シ濃硫酸中ヲ通シテ乾燥セルモノヲ用フヘシ

試藥硝酸カリ」ノ次ニ「ロダンカリ」ヲ加フ

Kalium sulfocyanatum
ロダンカリ KCNS

無色潮解性ノ針狀或ハ稜柱狀結晶ナリ

試藥石灰乳」ノ次ニ酵素液ヲ加フ

Liquor Fermenti
酵素液

麹菌ヨリ製シタル澱粉糖化酵素0.3gニ水10cc及十分定規塩酸0.5ccヲ加ヘ數分間善ク振盪シタル後遠心分離ヲ行ヒ上澄液ヲ用フヘシ

試藥二酸化マンガン」ノ次ニ「マグネシウム末ヲ加フ

Magnesium pulveratum
マグネシウム末

金屬マグネシウム」ノ粉末ナリ

試藥苛性ナトロン」ノ次ニ標準肝油ヲ加フ

Oleum Jecoris standardum
標準肝油

黄色澄明ノ肝油ニシテ其純アルコール溶液ヲ取リ分光光度計ヲ用ヒ波長328mμニ於ケル吸光度ヲ少クモ三回測定シ其平均値ヨリ次式ニヨリ肝油ノ1％溶液ノ液層1cmニ於ケル吸光係數（$E^{1\%}_{1cm}$）ヲ算出スルニ6.1～6.4ナルモノナリ

$$E^{1\%}_{1cm} = E \cdot \left(\frac{1}{ab}\right)$$

但シaハ肝油ノ純アルコール溶液ノ濃度（$\frac{g}{al}$）、bハ同溶液層ノ厚サ（cm）、Eハ吸光度トス

壜中ニ容レ壜ノ空部ニ炭酸ガス」ヲ充タシ密栓シ光ヲ遮リ冷所ニ貯ヘ檢定ノ日ヨリ六ケ月以内ニ使用スヘシ

試藥フロログルシン」ノ次ニ醋酸ソーダ緩衝液ヲ加フ

Puffersoltio Natrii acetici
醋酸ソーダ緩衝液

定規ナトロン液十七容量ニ稀醋酸四十容量ヲ和シ水ヲ加ヘテ全量二百容量トナシ製スヘシ

試藥塩化カルシウム溶液ヲ左ノ如ク改ム

正條ノ塩化カルシウム一分ヲ水十九分ニ溶解スヘシ

試藥硫酸カルシウム溶液ノ次ニ「クロルヨード溶液ヲ加フ

Solutio Chlor-jodi
クロルヨード溶液

精製ヨード」ヲ氷醋酸ニ溶解シ塩素ヲ通シタル赤褐色ノ液ニシテ精製ヨード1.3gヲ氷醋酸100ccニ溶解シ其200ccヲ取リ「ヨードカリ溶液15cc及水100ccヲ注加シ屢々振盪シツツ十分定規チオ硫酸ソーダ液ヲ滴加シテ脫色スルニ至リ次ニ前記ヨード暗褐色ヨリ赤褐色ニ變スルニ至リテ塩素ノ通導ヲ止メ其20ccヲ取リ前記ト同樣十分定規チオ硫酸ソーダ液ヲ滴加シ脫色スルニ至ルニ該液ヲ費スコト塩素通導前ノ二倍トナル如ク製スヘシ

壜中ニ容レ硝子栓ヲ以テ密閉シ光ヲ遮リ冷處ニ貯フヘシ

試藥三塩化アンチモンクロロホルム溶液ヲ左ノ如ク改ム

用ニ臨ミテ三塩化アンチモン」ニ約同容量ノ水ヲ以テ二三回洗滌シ光ヲ遮リ炭酸カリ」ヲ用ヒテ乾燥濾過シ蒸溜シテ得タル精製クロロホルム」ヲ加ヘテ反覆洗滌シ洗液澄明トナルニ至リ20°ニ於テ同クロロホルム」ヲ飽和溶液トナシ製スヘシ

試藥三塩化アンチモンクロロホルム溶液ノ次ニ醋酸ウラニル溶液」ヲ加フ

Solutio Uranyli acetici
醋酸ウラニル溶液

醋酸ウラニル一分ニ水十九分ヲ加ヘテ振盪シ溶解シ濾過シテ製スヘシ

試藥クルクマチンキ」ノ次ニ「トルオール」ヲ加フ

Toluolum
トルオール $CH_3C_6H_5$

無色澄明揮發性ノ液ニシテ比重0.867～0.871、沸騰點109°～112°ナリ

試藥トラガント細末」ノ次ニ醋酸ウラニル」ヲ加フ

Uranylium acetici
醋酸ウラニル $UO_2(C_2H_3O_2)_2 + 2H_2O$

黄色ノ結晶或ハ結晶性粉末ナリ

定規液定規ナトロン液ノ次ニ二分定規ナトロン液及十分定規ナトロン液ヲ加フ

Solutio Natri volumetrica seminormalis
二分定規ナトロン液

1ℓ中苛性ナトロン20.002gヲ含有スル液ニシテ其10ccハ二分定規塩酸10ccヲ中和スヘシ（標示藥メチルオレンジ溶液）

本液ハ二分定規カリ液ニ代リ滴定ニ使用スルコトヲ得

Solutio Natri volumetrica decinormalis
十分定規ナトロン液

1ℓ中苛性ナトロン4.000gヲ含有スル液ニシテ其10ccハ十分定規塩酸10ccヲ中和スヘシ（標示藥フェノールフタレイン溶液）

本液ハ十分定規カリ液ニ代リ滴定ニ使用スルコトヲ得

◉農商省令第二十三號

農地調整施設補助規則中左ノ通改正ス

昭和十九年四月四日　農商大臣　内田信也

第二條第一項第三號中「自作農創設維持資金」ノ下ニ「若ハ自作農創設促進報奬資金」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

告示

◉大藏省告示第百四十二號

金融統制團體令第四十一條第五項ノ規定ニ依リ昭和十九年三月三十一日永井又二郎ヲ損害保險統制會ノ理事ニ任命ノ件認可シタリ

昭和十九年四月四日　大藏大臣　石渡莊太郎

◉文部省告示第三百九十一號

中等學校令ニ依リ左記實業學校ヲ設置シ昭和十九年四月ヨリ開校ノ件昭和十九年三月八日認可セリ

昭和十九年四月四日　文部大臣　子爵　岡部　長景

名稱	靜岡縣三島工業學校
位置	靜岡縣三島市
設立者	靜岡縣三島市
學科	機械科、電氣科
修業年限	四年
入學資格	國民學校初等科修了程度

◉文部省告示第三百九十二號

靜岡縣三島市ニ設置セル靜岡縣三島商業學校ヲ昭和二十一年三月三十一日限廢止ノ件昭和十九年三月八日認可セリ

昭和十九年四月四日　文部大臣　子爵　岡部　長景

◎文部省告示第三百九十三號

中等學校令ニ依リ左記實業學校ヲ設置シ昭和十九年四月ヨリ開校ノ件昭和十九年三月八日認可セリ

昭和十九年四月四日　文部大臣　子爵　岡部　長景

名稱　靜岡縣磐田工業學校
位置　靜岡縣磐田郡磐田町
設立者　靜岡縣磐田郡磐田町
學科　機械科
修業年限　四年
入學資格　國民學校初等科修了程度

◎文部省告示第三百九十四號

靜岡縣磐田郡磐田町ニ設置セル靜岡縣磐田商業學校ヲ昭和二十一年三月三十一日限廢止ノ件昭和十九年三月八日認可セリ

昭和十九年四月四日　文部大臣　子爵　岡部　長景

◎文部省告示第三百九十五號

中等學校令ニ依リ左記實業學校ヲ設置シ昭和十九年四月ヨリ開校ノ件昭和十九年三月八日認可セリ

昭和十九年四月四日　文部大臣　子爵　岡部　長景

名稱　靜岡縣堀之內女子農業學校
位置　靜岡縣小笠郡堀之內町
設立者　靜岡縣小笠郡堀之內町　外七ヶ村學校組合
學科　農業科
修業年限　二年
入學資格　國民學校高等科修了程度

◎文部省告示第三百九十六號

靜岡縣小笠郡堀之內町ニ設置セル靜岡縣堀之內高等家政女學校ヲ昭和十九年三月三十一日限廢止ノ件昭和十九年三月八日認可セリ

昭和十九年四月四日　文部大臣　子爵　岡部　長景

◎文部省告示第三百九十七號

中等學校令ニ依リ左記實業學校ヲ設置シ昭和十九年四月ヨリ開校ノ件昭和十九年三月八日認可セリ

昭和十九年四月四日　文部大臣　子爵　岡部　長景

名稱　新名女子商業學校
位置　神奈川縣小田原市
設立者　財團法人新名女子商業學校
修業年限　（第一部）四年　（第二部）二年
入學資格　（第一部）國民學校初等科修了程度　（第二部）國民學校高等科修了程度

◎文部省告示第三百九十八號

神奈川縣小田原市所在新名高等家政女學校ヲ昭和二十一年三月三十一日限廢止ノ件昭和十九年三月八日認可セリ

昭和十九年四月四日　文部大臣　子爵　岡部　長景

◎農商省告示第四百十號

昭和十六年一月農林省告示第三十六號（漁網網配給統制規則第一條ノ規定ニ依リ指定ノ件）中左ノ通改正ス

昭和十九年四月四日　農商大臣　內田　信也

同條第二項ノ農商大臣ノ指定シタル者ノ中「綿漁網」ニ付　日本綿漁網製造株式會社
漁具用綿撚絲及漁網仕立用綿撚絲ニ付　日本撚糸製造販賣株式會社

ヲ「綿漁網、漁具用綿撚絲及漁網仕立用綿撚絲」ニ付　日本漁網撚糸株式會社」ニ改ム

◎農商省告示第四百十一號

統制會社令第三條第二項ノ規定ニ依リ昭和十九年三月三十日統制會社ト爲ルベキ旨左ノ通命ジタリ

昭和十九年四月四日　農商大臣　內田　信也

一　命令ヲ受ケタル者ノ名稱及住所　日本罐詰統制株式會社　東京都日本橋區吳服橋一丁目

二　統制會社ノ目的　國民經濟ノ總力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル爲食料品罐壜詰ノ製造集荷及配給ノ統制ノ爲ニスル經營ヲ行フコト

三　統制會社ヲ設立スベキ期限　昭和十九年五月十八日

◎重需省告示第二百二十九號

重要產業團體令第二十四條第一項ノ規定ニ依リ昭和十九年三月三十一日石炭統制會ノ定款變更ノ件左ノ通認可シタリ

昭和十九年四月四日　軍需大臣　東條　英機

第三條中「東京市」ヲ「東京都麹町區」ニ改ム

第四條　本會ハ左ニ揭グル者ヲ以テ之ヲ組織ス

一　石炭鑛業ヲ營ム鑛業權者ニシテ軍需大臣ノ指定シタルモノ

二　商工組合法ニ依リ設立セラレタル統制組合ニシテ軍需大臣ノ指定シタルモノ

三　石炭販賣業ヲ營ム者ニシテ軍需大臣ノ指定シタルモノ

四　其ノ他軍需大臣ノ指定シタル者

第五條、第八條、第十一條、第十二條及第十三條中「商工大臣」ヲ「軍需大臣」ニ改ム

◎軍需省告示第二百三十號

重要產業團體令第二十四條第一項ノ規定ニ依リ昭和十九年三月三十一日石炭統制會ノ統制規程變更ノ件左ノ通認可シタリ

昭和十九年四月四日　軍需大臣　東條　英機

「商工大臣」ヲ「軍需大臣」ニ改ム

第六條中「日本石炭株式會社」ヲ「石炭ノ販賣業ヲ營ム會員」ニ改ム

◎軍需省告示第二百三十一號

商工組合法第三十九條ノ規定ニ依リ昭和十九年三月二十三日日本人造バター工業統制組合統制規程設定ノ件左ノ通認可シタリ

昭和十九年四月四日　軍需大臣　東條　英機

日本人造バター工業統制組合統制規程

第一章　總則

第一條　本組合ニ於テ行フ組合員ノ人造バターニ關スル統制ハ定款ニ定ムルモノノ外本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本規程ニ依ル指示又ハ割當ハ緊急ヲ要スル場合其ノ他特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外其ノ實施期日ヨリ一週間前迄ニ組合員ニ通知シテ之ヲ行フモノトス

第三條　組合員ハ本規程ニ依ル指示ヲ受ケタルトキハ之ニ從フベシ但シ特別ノ事由ニ因リ本組合ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　本規程中期間及本規程ノ實施ニ必要ナル事項ハ理事長別ニ之ヲ定ム

第二章　生產ニ關スル統制

第五條　本組合組合員ノ製品ノ規格ノ統一上必要アリト認ムルトキハ組合員ノ使用スル原料又ハ材料ノ規格又ハ品質ヲ指示スルコトアルベシ

前項ノ原料又ハ材料トハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　食用動植物性油脂

二　バタカラー

第六條　組合員ハ其ノ使用シ又ハ保有スル設備ヲ本組合ニ登錄スベシ

前項ノ設備トハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

一　電動機

二　攪拌機

三　冷却裝置

組合員ハ第一項ノ登錄ヲ爲スニ非ザレバ前項ニ揭グル設備（以下設備ト稱ス）ヲ使用スルコトヲ得ズ

第七條　本組合必要アリト認ムルトキハ組合員ノ設備ノ使用ヲ制限スルコトアルベシ

前項ノ制限ハ組合員ノ設備ニ付封印ヲ施シ又ハ其ノ要部ヲ取外シテ之ヲ行フ

第八條　本組合ハ組合員ニ對シ其ノ製品ノ製造ヲ爲スコトヲ要ス但シ設備ノ故障其ノ他特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テハ組合員ハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ生產見込數量ヲ本組合ニ屆出デ承認ヲ受クベシ

第三章　販賣ニ關スル統制

第九條　本組合組合員ノ製品ノ販賣ノ統制上必要アリト認ムルトキハ組合員ニ對シ其ノ製品ノ販賣先、販賣地又ハ販賣方法ヲ指示スルコトアルベシ

第十條　本組合ハ組合員ニ對シ一定期間ニ於テ組合員ノ販賣スベキ製品ノ品等別數量ノ割當ヲ爲ス

組合員ハ第一項ノ規定ニ依リ割當ヲ受ケタル數量ヲ超エテ製品ノ販賣ヲ爲スコトヲ得ズ但シ特別ノ事由ニ因リ本組合ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四章　製品ノ檢査

第十一條　組合員ハ其ノ製品ニ付別ニ定ムル檢査規程ニ依リ本組合ノ檢査ヲ受クベシ

組合員ハ第一項ノ檢査ニ合格シタルモノニ非ザレバ製品ノ使用、消費若ハ販賣又ハ此等ノ目的ヲ以テ事業場以外ヘノ搬出ヲ爲スコトヲ得ズ但シ特別ノ事由ニ因リ本組合ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條　組合員ハ其ノ製造シタル鋸ナルコトヲ表示スル爲記號ヲ定メ之ヲ本組合ニ屆出ヅベシ

之ヲ變更シタルトキ又同ジ

第十三條　組合員ハ其ノ製造シタル鋸ニ前條第一項ノ規定ニ依リ屆出タル記號ヲ附スベシ

第十四條　組合員ハ其ノ製品ニ付本組合ノ行フ檢査ヲ受クベシ

第十五條　組合員ハ前條ノ規定ニ依ル檢査ニ合格シタル製品ニ非ザレバ之ヲ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ工場外ニ搬出スルコトヲ得ズ

第十六條　本組合ハ全日本機械器具統制組合並ニ發註官廳ヨリ割當ラレタル數量ノ範圍ニ於テ第五條ノ規定ニ依リ生產ニ付指示若ハ割當ヲ爲シタル鋸ノ製造用資材ヲ組合員ニ對シ配給ス

第十七條　組合員ハ前條ノ規定ニ依リ配給セラレタル資材ヲ他ニ轉用シ又ハ讓渡スルコトヲ得ズ

第十八條　理事長必要アリト認ムルトキハ組合員ヨリ資材（燃料、動力ヲ含ム以下同ジ）ノ使用狀況若ハ取得狀況ニ付必要ナル報告ヲ徵シ又ハ組合員ニ對シ資材ノ使用若ハ取得ニ關シ數量、用途、取得先其ノ他必要ナル事項ヲ指示スルコトアルベシ

第十九條　理事長資材ノ需給調整ヲ圖ル爲特ニ必要アリト認ムルトキハ組合員ニ對シ資材ノ保有、交換、貸與又ハ讓渡ニ關シ必要ナル事項ヲ指示スルコトアルベシ

第二十條　本組合ハ鋸ノ受註並ニ販賣ヲ行フ但シ理事長ノ指定シタル機種若ハ用途ニ充ツル鋸ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條　組合員ハ其ノ製造シタル鋸ヲ總テ本組合ニ賣渡スベシ但シ理事長ノ指定シタル機種若ハ用途ニ充ツル鋸ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條　理事長ハ一定期間ニ於ケル組合員ノ製造ニ係ル鋸ノ配給計畫ヲ樹立ス

第二十三條　組合員其ノ製品ニ付納入先ヲ指定セラレタル場合ハ指定外ノ者ニ製品ヲ販賣シ又ハ讓渡スルコトヲ得ズ但シ特別ノ事由ニ因リ理事長ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條　理事長必要アリト認ムルトキハ鋸ノ配給機關ヲ指定スルコトアルベシ

前項ノ配給機關本組合ノ指示ニ背キ又ハ本組合ノ行フ統制ヲ紊ス行爲アリタルトキハ鋸ノ配給ヲ停止シ又ハ配給數量ヲ減ジ若ハ前項ノ指定ヲ取消スコトアルベシ

第二十五條　組合員ハ一定期間ニ於ケル左ノ各號ニ揭グル事項ヲ記載シタル書類ヲ本組合ニ提出スベシ

一　鋸ノ生產狀況

二　鋸ノ納入狀況

三　鋸ノ輸送ニ關スル計畫及鋸ノ輸送實績

四　從業員ノ所要人員ニ關スル計畫及從業員ノ雇傭實績

五　燃料及電力ノ調達及使用狀況

第二十六條　組合員ハ本組合ノ行フ鋸ノ生產割當若ハ生產指示ノ外鋸ノ下請製造又ハ賃加工ヲ爲サントスルトキハ豫メ其ノ明細ヲ本組合ニ屆出テ理事長ノ承認ヲ受クベシ

第二十七條　第二十五條ノ書類ノ提出期限並ニ樣式ハ理事長別ニ之ヲ定ム

◎軍需省告示第二百三十三號

昭和十八年十一軍需省告示第一號（軍需省ノ事務所及其ノ出張所ノ名稱、位置及官轄區域ノ件）中左ノ通改正ス

昭和十九年四月四日　軍需大臣　東條　英機

三ノ表中九州軍需監理部電力事務室ノ項ヲ削ル

◎運輸通信省告示第百四十四號

倉庫營業者ノ營業所ノ位置左ノ通變更アリタリ

昭和十九年四月四日　運輸通信大臣　五島　慶太

共成株式會社

變更前	變更後
北海道小樽市有幌町五八六番地	北海道小樽市奧澤町四丁目四六番地

變更年月日　昭和十九年四月一日

正誤

去月二十三日文部省令第十一號青年師範學校規程第七條初行「詳ニスルト」ハ「詳ニスルト」第十五條五行「隨セザル」ハ「墮セザル」ノ誤モ誤第三十條二行「特別ノ云々」以下ハ別行ト爲ルヘキノ誤　文部書記官

去月十八日農商省告示第三百三十一號中三七九頁二段四行「下山手通六番地ノ六五」ハ「下山手通六丁目六五番地ノ七八神港倶樂部內」ノ誤　農商書記官

同二十日內務省告示第百四十六號二行「昭和十九年三月　日」ハ「昭和十九年三月二十日」

同三十日陸軍省令第十八號中六七八頁附表第一　鐵道賃ノ部一般旅行ノ丙額一粁ニ付ノ欄「六〇〇」ハ「六三〇」ノ誤モ誤植

敍任及辭令

◎昭和十八年十二月一日

（各通）

正四位	安齋　宏素	同	佐野秀之助
敍從三位	岡　德治郎	同	銳夫
同	伊東彌惠治	同	牧
同	箕田　正一	同	花村　美樹
同	谷　忠治	同	安倍　輔
同	佐藤　龍馬	同	島　保
同	清田　秀雄	同	辰野　隆
同	田中　一郎	同	村上常太郎
同	小林右太郎	同	三雲佳三郎
同	永井太三郎	同	越川　道三
同	松本　官平	同	熊谷　誠
敍正四位	松江　秀季	同	伊藤　貞治
同	栗林定次郎	同	小柴文三郎
同	赤松　元道	同	田村專一郎
同	村松恒一郎	同	志水義暲
同	野口　洪	同	小野鐵二
同	谷　基正	同	鹽野直道
同	原田　安	同	堀　健夫
同	石井　準平	同	秋山　理敏
同	政一	同	

同 花輪 義敬 同 新納 克己
敍從四位 渡瀨 武男 同 有光 次郎
從五位 松久 義平 同 須貝 清一
同 松原 益太 同 宮城 健二
（各）同 山本 隆一 同 池田 敦義
（通）同 乾 重二 同 有賀 良
同 仲 格夫 同 高田 邦彦
同 市村 秀志 同 伊倉 健治
同 長久保 俊夫 同 大脇 直德
敍正五位
◎昭和十九年三月二十三日
營林局技手 安倍 幸作
任營林局技師
敍高等官七等
◎昭和十九年三月二十四日
正五位 堀 公一
敍從四位
◎昭和十九年三月二十八日
判事 山岸 誠次
陞敍高等官二等
◎昭和十九年四月一日
印刷局書記官 上條 勇
任印刷局理事
敍高等官二等
印刷局技師 矢野 道也
任印刷局技監
敍高等官一等
藤森 雄平
任專賣局醫官
敍高等官二等
（各通）大藏書記官 島本 融
同 今井 一男
陞敍高等官二等
倉林源四郎
任金澤高等師範學校長
敍高等官二等
東北帝國大學教授 丸井 清泰
任青森醫學專門學校長兼東北帝國大學教授
敍高等官一等
東京帝國大學教授 竹內松次郎
兼衞生試驗所技師
任松本醫學專門學校長兼東京帝國大學教授
敍高等官一等

任長崎工業經營專門學校長兼長崎經濟專門學校長 田中 保平
敍高等官二等
國松 豐
任名古屋工業經營專門學校長兼名古屋經濟專門學校長
敍高等官一等
岡野 鑑記
任橫濱工業經營專門學校長兼橫濱經濟專門學校長
敍高等官二等
田岡嘉壽彥
任彥根工業專門學校長兼彥根經濟專門學校長
敍高等官二等
花田大五郎
任和歌山工業專門學校長兼和歌山經濟專門學校長
敍高等官一等
長崎 太郎
任高岡工業專門學校長兼高岡經濟專門學校長
敍高等官一等
水戶高等學校教授 久保 謙
任高松經濟專門學校長
敍高等官二等
技術院參技官 清水 勤二
任明治工業專門學校長
敍高等官二等
軍需技師 三ツ井新次郎
陞敍高等官二等
仁科 芳雄
任通信院電波局長
敍高等官二等
前橋醫學專門學校長 石原 忍
兼任通信院醫官
敍高等官一等
松岡 全二
任遞信局醫官
敍高等官二等
臺灣總督府技師 小林 義雄
任臺北帝國大學教授
敍高等官二等

兼任內務事務官 貴族院書記官 河野 義克
敍高等官五等
（各通）伊藤 久榮
桑波田 秀枝
任造幣局醫官
敍高等官四等
富永 貢
任造幣局醫官
敍高等官三等
小松 宏吉
粟飯原 和美
任造幣局醫官
敍高等官五等
山本 富男
任造幣局醫官
敍高等官六等
福田 暉勝
任造幣局醫官
敍高等官七等
市古 鈞一
任印刷局醫官
敍高等官三等
佐藤 保雄
（各）村田 三千彥 川田 優
（通）菊池 正清
（小）名木 正夫
任印刷局醫官
敍高等官五等
（各通）齋藤 澤 綾部
任印刷局醫官
敍高等官六等
山本菊三郎 原田 彰
（各）鬼澤 富久 弘毅 三郎
（通）吉田 田又 豐太郎
任專賣局技師
敍高等官七等
當吉 田實
任專賣局醫官
敍高等官三等
仁村 木上 秀臣 英男 廣瀨 川賢 淺田 一郎 中村 耕作 上田 種一 魏
（通）秋田 吉牟田 工藤 楠 勉 實 稔
任專賣局醫官
敍高等官四等
佐々木 河野 井原 畑 武 六郎 彥 勉 喬
英雄 潤一 松次
原田 重朗 春原 新太郎
吉田 繁男
段野 前田 三浦 博之 功元
清水 勤二
任刑務醫官
敍高等官五等
佐藤 繁
任刑務醫官
敍高等官六等
（各通）溝口 周策
野畑 松二郎
任專賣局醫官
敍高等官六等
青井 信尙
松坂 小一郎
鬼塚 正憲
梅津 獅雄
任專賣局醫官
敍高等官七等
太田 豐
任海軍司政官
敍高等官六等
坂井 勉
任海軍司政官
敍高等官七等
陸軍司政官 司波 實
任檢事
敍高等官三等
（各）吉川 桂太郎
（通）大谷 靜夫
佐藤 金司
正木 時雄
小俣 省一郎
丸山 郁雄
安達 政信
三上 成田 高田 小兵衞
任刑務醫官
敍高等官四等
志村 寶五
定 形治
廣田 四熊
入澤 都三郎
島田 德男
西 周
（各）松岡 修一
（通）河野 司
溝口 馬太郎
見 三郎
正 男
任刑務醫官
敍高等官五等
山東 敷人
上 光裕 敬
平井 昌次
尾持 東平
關川 德與
小川 義成
青柳 辰夫
田代 源辰
多田隈 滿
半田 鋒
山中 石友
大澤 宗俊
麟 義
次郎 西村 野村 雅宏
佐藤 重則
町田 鋒
玉置 信雄
西村 博實
（各）高島 荒木 中里 大橋 重雄 榮吉 董
（通）坂本 田 林 吉田 小川 關川 東平 徳與 山中 半田 大澤 麟 次郎 水越 工藤 八次 庭本 佐吉 節 吉郎 賢 一 三 實 秀實 夫 讓郎
任刑務醫官
敍高等官六等
芦 豪雄
菅原 金治郎
江刺家磐男
任岩手青年師範學校教授
敍高等官六等
（各通）
任岩手青年師範學校教授
敍高等官七等
宮城師範學校長 山本 昇
兼任宮城青年師範學校長
敍高等官三等
野田英千代
任宮城青年師範學校教授
敍高等官四等
菊地 朝治
任宮城青年師範學校教授
敍高等官五等
三重師範學校教授 中島 桂藏
任秋田青年師範學校長
敍高等官三等
小泉松五郎
任秋田青年師範學校教授
敍高等官三等
荒 勝美
鈴木 龜雄
（各通）
任秋田青年師範學校教授
敍高等官七等
石川師範學校教授 田邊 次郎
任山形青年師範學校長
敍高等官三等
五十嵐正治
任山形青年師範學校教授
敍高等官五等
竹田 五郎
任山形青年師範學校教授
敍高等官六等
阿部 雄作
關根 喜代
（各通）
任山形青年師範學校教授
敍高等官七等
佐々木 幸
任福島青年師範學校長
敍高等官五等
荒原 祐也
任福島青年師範學校教授
敍高等官六等

任東京商科大學附屬工業經營專門部教授兼東京商科大學附屬商學專門部教授
敍高等官六等
（各通）
（西）高松 勵 有田 功
（通）冨 政輔 竹下 嘉惣 賀川 福夫
（鎌）田 重一 向島 淑
任刑務醫官
敍高等官七等
前田 靜雄
任刑務技師
敍高等官四等
（各通）
任刑務技師
敍高等官五等
（各通）
任刑務技師
敍高等官六等
牛尾 壽男
井上信太郎
手島 收造
（各）川崎 又一
（通）廣瀨英五郎
淺野 俊信
任刑務技師
敍高等官七等
黑羽 英男
任東京商科大學附屬工業經營專門部教授兼東京商科大學附屬商學專門部教授
敍高等官三等
山田 和男
山城 章
（各通）東京商科大學附屬商學專門部教授 河合諄太郎
同 上原 專祿
任東京商科大學附屬工業經營專門部教授兼東京商科大學附屬商學專門部教授
敍高等官三等
大津 功
林 英太郎
吉田 武男
深山 開作
奧田 重光
任東京商科大學附屬工業經營專門部教授兼東京商科大學附屬商學專門部教授
敍高等官五等
小川 岩松
工東 寅信
岸野 春一
任東京商科大學附屬工業經營專門部教授兼東京商科大學附屬商學專門部教授
敍高等官七等
高城 守人
渡邊 欣一
任東京商科大學附屬工業經營專門部教授兼東京商科大學附屬商學專門部教授
敍高等官六等
（各通）東京商科大學附屬商學專門部教授兼東京商科大學教授 上原 專祿
任東京商科大學附屬工業經營專門部教授兼東京商科大學附屬商學專門部教授
敍高等官三等
東京商科大學附屬商學專門部教授兼東京商科大學學生主事 深見 義一
任東京商科大學附屬工業經營專門部教授兼東京商科大學學生主事如故
敍高等官三等
山田 和男
山城 章
（各通）
任東京商科大學附屬工業經營專門部教授兼東京商科大學附屬商學專門部教授
敍高等官五等

兼任內務事務官
敍高等官五等
（各通）伊藤 久榮
桑波田 秀枝
任造幣局醫官
敍高等官四等
富永 貢
任造幣局醫官
敍高等官三等
小松 宏吉
粟飯原 和美
任造幣局醫官
敍高等官五等
山本 富男
任造幣局醫官
敍高等官六等
福田 暉勝
任造幣局醫官
敍高等官七等
市古 鈞一
任印刷局醫官
敍高等官三等
佐藤 保雄
（各）村田 三千彥
（通）菊池 正清
（小）名木 正夫
任印刷局醫官
敍高等官五等
（各通）齋藤 澤 綾部
任印刷局醫官
敍高等官六等
山本菊三郎 原田 彰
（各）鬼澤 富久 弘毅 三郎
（通）吉田 田又 豐太郎
任專賣局技師
敍高等官七等
當吉 田實
任專賣局醫官
敍高等官三等
仁村 木上 秀臣 英男 廣瀨 川賢 淺田 一郎 中村 耕作 上田 種一 魏
（通）秋田 吉牟田 工藤 楠 勉 實 稔
任專賣局醫官
敍高等官四等
佐々木 河野 井原 畑 武 六郎 彥 勉 喬
英雄 潤一 松次
原田 重朗 春原 新太郎
吉田 繁男
段野 前田 三浦 博之 功元
清水 勤二
任刑務醫官
敍高等官五等
佐藤 繁
任刑務醫官
敍高等官六等
（各通）溝口 周策
野畑 松二郎
任專賣局醫官
敍高等官六等
青井 信尙
松坂 小一郎
鬼塚 正憲
梅津 獅雄
任專賣局醫官
敍高等官七等
太田 豐
任海軍司政官
敍高等官六等
坂井 勉
任海軍司政官
敍高等官七等
陸軍司政官 司波 實
任檢事
敍高等官三等
（各）吉川 桂太郎
（通）大谷 靜夫
佐藤 金司
正木 時雄
小俣 省一郎
丸山 郁雄
安達 政信
三上 成田 高田 小兵衞
任刑務醫官
敍高等官四等
志村 寶五
定 形治
廣田 四熊
入澤 都三郎
島田 德男
西 周
（各）松岡 修一
（通）河野 司
溝口 馬太郎
見 三郎
正 男
任刑務醫官
敍高等官五等
山東 敷人
上 光裕 敬
平井 昌次
尾持 東平
關川 德與
小川 義成
青柳 辰夫
田代 源辰
多田隈 滿
半田 鋒
山中 石友
大澤 宗俊
麟 義
次郎 西村 野村 雅宏
佐藤 重則
町田 鋒
玉置 信雄
西村 博實
（各）高島 荒木 中里 大橋 重雄 榮吉 董
（通）坂本 田 林 吉田 小川 關川 東平 徳與 山中 半田 大澤 麟 次郎 水越 工藤 八次 庭本 佐吉 節 吉郎 賢 一 三 實 秀實 夫 讓郎
任刑務醫官
敍高等官六等
芦 豪雄
菅原 金治郎
江刺家磐男

任福島青年師範學校教授　熊坂　金司
敍高等官七等
茨城師範學校長　磯野　清
兼任茨城青年師範學校長
敍高等官三等
任茨城青年師範學校教授　濱口　德治
敍高等官五等
任茨城青年師範學校教授　谷中　虎
敍高等官六等　片岡　五郎
（各通）
任茨城青年師範學校教授　松田　義夫
敍高等官七等
任栃木青年師範學校長兼宇都宮農林專門學校教授　柴田　文平
敍高等官三等
任栃木青年師範學校教授　福田　豊
敍高等官四等
任栃木青年師範學校教授　富樫　吉男
敍高等官五等
任栃木青年師範學校教授　立入　隼人
敍高等官七等
群馬師範學校長　橋本重次郎
兼任群馬青年師範學校長
敍高等官三等　城田　麻雄
任群馬青年師範學校教授
敍高等官七等
埼玉師範學校長　岡田　恒輔
兼任埼玉青年師範學校長
敍高等官三等　吉田　秀臣
任埼玉青年師範學校教授
敍高等官三等　內田　近藏
任埼玉青年師範學校教授
敍高等官四等

任埼玉青年師範學校教授　小倉　彥一
敍高等官七等
千葉師範學校長　守內喜一郎
兼任千葉青年師範學校長
敍高等官三等　鳴原　篤二
任千葉青年師範學校教授
敍高等官三等　江連　悌一
任千葉青年師範學校教授
敍高等官六等
東京農業教育專門學校教授　田中冨太郎
任東京青年師範學校長兼東京農業教育專門學校教授
敍高等官三等　久野　善夫
任東京青年師範學校教授
敍高等官五等　五十嵐梧樓
長谷川稔
（各通）
任東京青年師範學校教授
敍高等官六等　阪本　董夫
（各通）　木村　庫三
任東京青年師範學校教授
敍高等官七等　一山內　成豐
黑岩　一郎
兼任神奈川青年師範學校長　木下　一雄
敍高等官三等
任神奈川青年師範學校教授　小泉　隆
敍高等官六等
佐々木榮五郎
（各通）　橫山孝次郎
任神奈川青年師範學校教授
敍高等官七等　尾澤　德治
新潟第一師範學校長　加藤　覺亮
兼任新潟青年師範學校長
敍高等官三等　兒玉　一郎
任新潟青年師範學校教授

任新潟青年師範學校教授　井上　新吉
敍高等官五等
富山師範學校長　福富　正吉
兼任富山青年師範學校長
敍高等官三等　竹內　兵太
任富山青年師範學校教授
敍高等官六等　五坪　茂雄
任石川青年師範學校長
敍高等官三等　山本　敬三
任石川青年師範學校教授
敍高等官六等　目黑　松治
任石川青年師範學校教授
敍高等官七等
福井師範學校長　林　傳次
兼任福井青年師範學校長
敍高等官三等　加藤　竹雄
任福井青年師範學校教授
敍高等官三等　佐藤　源太
任福井青年師範學校教授
敍高等官五等　白鳥　貞一
任福井青年師範學校教授
敍高等官六等　木谷ゑやう
任福井青年師範學校教授
敍高等官七等
山梨師範學校長　府瀨川熊司
兼任山梨青年師範學校長
敍高等官三等　森岡　滉
（各通）　田中稻太郎
任山梨青年師範學校教授
敍高等官七等
大東亞錬成院錬成官　上條憲太郎
任長野青年師範學校長
敍高等官三等

（各通）　西澤　正己
任長野青年師範學校教授　原　善平
敍高等官五等
小原　清　小河原　田
（各通）　柳澤　英夫
任長野青年師範學校教授
敍高等官七等　瀨戸　金治
任岐阜青年師範學校長
敍高等官四等　黑田　三八
任岐阜青年師範學校教授
敍高等官六等　小林　博
任岐阜青年師範學校教授
敍高等官七等　山田　直記
任靜岡青年師範學校長
敍高等官四等　舟本　久義
（各通）都築　稔　山崎　妙
（通）杉本　重雄　小堀　勉
本郷　春海　山本みどり
任靜岡青年師範學校教授
敍高等官七等　三宅　義一
任愛知青年師範學校長
敍高等官五等　高橋　類治
田中　泰三
（各通）
任愛知青年師範學校教授
敍高等官五等　木股　勝美
任愛知青年師範學校教授
敍高等官六等　水谷　治郎
（各通）　星　克美　竹島　清治
服部　秀一
任愛知青年師範學校教授
敍高等官七等　澁谷　義夫
三重師範學校長　杉山　隆二
兼任三重青年師範學校長
敍高等官三等
三重師範學校教授
兼任三重青年師範學校教授
敍高等官三等

任三重青年師範學校教授　福井　武治
敍高等官四等
（各通）
任三重青年師範學校教授　功力　嘉代
敍高等官七等　冨野　耕治
滋賀師範學校長　今井　嘉橘
兼任滋賀青年師範學校長
敍高等官三等
滋賀師範學校教授　角田　陽六
兼任滋賀青年師範學校教授
敍高等官四等　川那邊海隆
任滋賀青年師範學校教授
敍高等官五等　寺田　正雄
任滋賀青年師範學校教授
敍高等官七等
京都師範學校長　北川久五郎
兼任京都青年師範學校長
敍高等官三等　相馬　信司
任京都青年師範學校教授
敍高等官五等　三村　好秋
任京都青年師範學校教授
敍高等官六等　望月隆二郎
任大阪青年師範學校長
敍高等官三等　米井　靜雄
任大阪青年師範學校教授
敍高等官六等
持舘　拳　岡　潔
（各通）　梶山隆四郎　追矢　正巳
藤井　毅
任大阪青年師範學校教授
敍高等官七等
公立中等學校長兼公立中等學校教諭　石田　彰
任兵庫青年師範學校長
敍高等官三等　林　正旦
任兵庫青年師範學校教授
敍高等官六等

任兵庫青年師範學校教授　青木　拳
敍高等官七等
谷原　義一
任奈良青年師範學校長
敍高等官三等
（各通）　吉岡　馨
任奈良青年師範學校教授　牧浦　勇
敍高等官七等
和歌山師範學校長　大西　彌
兼任和歌山青年師範學校長
敍高等官三等　籠田　又平
任和歌山青年師範學校教授
敍高等官三等
（各通）　松下　行夫
任和歌山青年師範學校教授　倉田　柳子
敍高等官七等
任島取青年師範學校長　苅谷　建男
敍高等官三等
（各通）　小山　小一
任島取青年師範學校教授　黑川　顯憲
敍高等官五等　廣岡　辰三
任島取青年師範學校教授
敍高等官七等　石黑　立
任島根青年師範學校長
敍高等官三等　宮本　陸治
（各通）　福田　房代
任島根青年師範學校教授
敍高等官四等　宮田　岩男
任島根青年師範學校教授
敍高等官六等　加藤　秀男
任島根青年師範學校教授
敍高等官七等　難波　得三
東京農業教育專門學校教授
任岡山青年師範學校長
敍高等官三等

任岡山青年師範學校教授　石井　辰美
敍高等官七等
任廣島青年師範學校長　加藤恂二郎
敍高等官三等
任廣島青年師範學校教授　沖永　剛明
敍高等官三等
任廣島青年師範學校教授　岸　敏彥
敍高等官四等
任廣島青年師範學校教授　小池　鑑一
敍高等官六等
任廣島青年師範學校教授　上村　貞章
敍高等官七等
任山口青年師範學校長　林　幸一
敍高等官四等
任山口青年師範學校教授　藍原　末男
（各通）　岡村　チカ
任山口青年師範學校教授
敍高等官六等　和泉　英二
坪井　好人　柴田　正悟
（各通）　安田　正夫
任山口青年師範學校教授　五島　直人
敍高等官七等
任德島青年師範學校長　古川　清八
敍高等官三等
任德島青年師範學校教授　井澤　孝三
敍高等官四等
任德島青年師範學校教授　貴田　武捷
（各通）　坂井　信雄
任德島青年師範學校教授
敍高等官七等　笹島　佐吉
任香川青年師範學校長
敍高等官三等　福澤　宗吉
任香川青年師範學校教授
敍高等官五等

（各通）　小倉　胤雄
桂　孝二
任香川青年師範學校教授　大川　良一
敍高等官七等
任愛媛青年師範學校長　杉尾　正知
敍高等官三等
（各通）　愛媛師範學校教授　上地　龜義
兼任愛媛青年師範學校教授
敍高等官三等　金村治三郎
任愛媛青年師範學校教授
敍高等官五等　田所マサヨ
任愛媛青年師範學校教授
敍高等官六等　重松　立木
（各通）　藤田　豐一
任愛媛青年師範學校教授
敍高等官七等　和田　英正
任高知青年師範學校長
敍高等官三等　大久保松次郎
任高知青年師範學校教授
敍高等官三等　谷山　律三
（各通）　土居　信路　川村　季夫
塩見　淳一
山本　紀男
任高知青年師範學校教授
敍高等官七等　高築　勇
任福岡青年師範學校長
敍高等官三等　山本　三吾
（各通）　美馬　住二
任福岡青年師範學校教授
敍高等官六等　王丸　周夫
（各通）　太田　等　吉田　信照
井上　玄
任福岡青年師範學校教授
敍高等官七等　田中　久道
任佐賀青年師範學校教授
敍高等官四等

任佐賀青年師範學校教授　澤田義祐
叙高等官四等
任佐賀青年師範學校教授　深川孝四郎
叙高等官六等
任佐賀青年師範學校教授　堤虎雄
叙高等官七等
任長崎青年師範學校長　宮川文平
叙高等官三等
任長崎青年師範學校教授　笠間玄一
叙高等官五等
任長崎青年師範學校教授　白濱增夫
叙高等官六等
任熊本青年師範學校教授　渡邊廣實
叙高等官四等
任熊本青年師範學校教授　岩田泰雄
叙高等官四等
任熊本青年師範學校教授　清住尊義
叙高等官五等
任熊本青年師範學校教授　工藤正人
叙高等官六等
任熊本青年師範學校教授　楠田隆
叙高等官七等
任熊本青年師範學校教授　石川覺七郎衞門
叙高等官七等
任大分青年師範學校教授　井上三十四
叙高等官五等
任大分青年師範學校教授　久保田八束
叙高等官六等
任大分青年師範學校教授　荷宮ミツ
叙高等官七等
任宮崎青年師範學校教授　海野隆之進
叙高等官三等

任宮崎青年師範學校教授　青井守
叙高等官六等
任宮崎青年師範學校教授　江藤次男
叙高等官七等
任鹿兒島青年師範學校教授兼鹿兒島農林專門學校教授　鈴木重雄
叙高等官三等
任鹿兒島青年師範學校教授　龍末雄
叙高等官六等
任鹿兒島青年師範學校教授　島中敏隆
叙高等官七等
任鹿兒島青年師範學校教授　秋田サタ
叙高等官七等
任沖繩青年師範學校長　島袋俊一
叙高等官四等
任横濱工業經營專門學校教授　塚原仁
叙高等官五等
任横濱工業經營專門學校教授　沼田嘉穗
叙高等官六等
任横濱工業經營專門學校教授　澤崎九二三
叙高等官七等
任横濱工業經營專門學校教授　小幡孫二
叙高等官七等
任横濱工業經營專門學校生徒主事兼横濱工業經營專門學校教授　齋藤照之助
叙高等官三等
任彦根工業專門學校教授　大橋幸雄
叙高等官三等
任彦根工業專門學校教授兼彦根工業專門學校生徒主事　秋山範二
叙高等官三等
任彦根工業專門學校教授兼彦根工業專門學校教授　芳谷有道
叙高等官四等

任名古屋工業經營專門學校教授　藻利重隆
叙高等官五等
任名古屋工業經營專門學校教授　田中道一
叙高等官六等
任名古屋工業經營專門學校教授　松久保重雄
叙高等官三等
任名古屋工業經營專門學校生徒主事兼名古屋工業經營專門學校教授名古屋經濟專門學校教授　鈴木得二
叙高等官三等
名古屋工業專門學校教授　松永義明
叙高等官三等
兼任名古屋工業經營專門學校教授　德增榮太郎
叙高等官三等
任横濱工業經營專門學校教授　井上龜三
叙高等官三等

任和歌山工業專門學校教授兼和歌山經濟專門學校教授　古賀經美
叙高等官三等
任和歌山工業專門學校教授兼和歌山工業專門學校生徒主事和歌山經濟專門學校教授　長崎精男
叙高等官三等
任和歌山工業專門學校教授　奥谷久彦
叙高等官四等
任和歌山工業專門學校教授兼和歌山經濟專門學校教授　井上宗次
叙高等官六等
任和歌山工業專門學校教授兼和歌山工業專門學校生徒主事和歌山經濟專門學校教授　清田研三
叙高等官七等
任高岡工業專門學校教授兼高岡工業專門學校生徒主事　日比野勇夫
叙高等官三等
任高岡工業專門學校教授兼高岡工業專門學校生徒主事　升本正爾
叙高等官五等
任高岡工業專門學校教授兼高岡工業專門學校生徒主事　大久保純一郎
叙高等官六等
任高岡工業專門學校教授　田中弘道
叙高等官五等
任高岡工業專門學校生徒主事兼高岡工業專門學校教授　西奈芦太郎
叙高等官六等
任大使館技師　米田富
叙高等官三等
任種羊場技師兼農商技師　平田梅治
叙高等官三等
任高岡工業專門學校教授兼高岡工業專門學校生徒主事　武田幸夫
叙高等官五等
任高岡工業專門學校教授　中谷隼男
叙高等官六等
任通信院醫官　大澤林之助
叙高等官三等

（各守）
（通）尾中森　惠藏博　正
叙高等官四等　池田屋毅
任通信院醫官　井上政之
叙高等官四等　飯野武尾横手　三木郎毎英一
（各）
（通）赤松金井　和夫　松司綱夫　公男　安部臼井
任通信院醫官　井倉出持　恭與七　六郎　三郎　眞　北村荻原
叙高等官五等　大森下妻水法
（各）
（通）　正文彰茂
任通信院醫官　青池木村勇雄康夫
叙高等官六等
（各）
（通）　庄司樋口光武人
任通信院醫官　田村昇
叙高等官七等
任通信院調劑官　石井馬場川石　三郎亮家成
叙高等官四等
（各）
（通）秋見池田　會元　忠治穆明
任海運局醫官　由本龜前田枝是　太郎利雄哲熊
叙高等官四等
任海運局醫官　久野乾二
叙高等官五等
任海運局醫官　日野從義
叙高等官六等
任海運局醫官　石原泰一郎清三勝
叙高等官六等
（各）
（通）船永　黑部　蜂谷　阪田　佐々木　若林　佐藤　古井　高崎　石田　大河合
南部本　南部　太田本　佐々木　悌次郎　林主　錦之助　井口庄　武司作　原泰一郎　吉本清三郎　原泰一郎　野藤田
福山　秋田　櫻井十信　岡本　櫻井　太田　猿渡　狹原　竹田　三宅　岡谷　大橋
新治　中塚

（各通）
任朝鮮總督府遞信醫官　吉村藏
敍高等官四等　藤永綿

朝鮮總督府遞信技師　廣瀨正亮
（各通）
任朝鮮總督府遞信醫官　豊田吟次
敍高等官五等　古河致人
時任英夫

（各通）　德岩佑宣
安野容泰
任朝鮮總督府遞信醫官　青木熙澤
敍高等官六等

（各通）
任朝鮮總督府遞信醫官　飯田雲夏
敍高等官七等　平井一郎

臺灣總督府視學官
任臺灣總督府視學官　林猪太郎
敍高等官三等

臺灣公立中等學校教諭　辰巳繁治
任臺灣總督府臺南工業專門學校教授
敍高等官四等

臺灣總督府師範學校教諭　清藤靜雄
任臺灣總督府師範學校教授兼臺灣總督府師
範學校教諭
敍高等官五等

臺灣公立中等學校教諭　小野寺正二
臺灣總督府師範學校助教授
（各通）
同　松隈生雄
同　多田楠太郎
同　中川彌一

臺灣總督府編修官兼臺灣總督府視學官　石井權三
任臺灣總督府師範學校教授
敍高等官七等

臺灣總督府青年師範學校長兼臺灣總督府
青年師範學校教授
任臺灣總督府師範學校教授
敍高等官三等

臺灣公立中等學校教諭　和田專一
（各通）
同　田中武
任臺灣公立中等學校長
敍高等官四等

臺灣總督府地方視學官　大谷恒郎
任臺灣公立中等學校長
敍高等官五等

臺灣公立中等學校教諭　上原繁雄
（各通）
同　工藤貞夫
任臺灣公立中等學校教諭
敍高等官七等

臺灣總督府屬　西川政藏
任臺灣總督府地方視學官
敍高等官六等

奉天第一中學校教諭　德永保
任關東局視學官
敍高等官六等

牡丹江中學校長兼
牡丹江中學校教諭　樽本憲藏
任旅順師範學校教授
敍高等官四等

關東州公立中等學校教諭　小橋彌八
任關東局中等學校教諭
敍高等官五等

（各通）同　高槻宏
任關東局中等學校教諭　小林武生
敍高等官七等

大連商業學校教諭　馬場政次
任關東州公立中等學校教諭
敍高等官五等

關東局中等學校教諭　大森義夫
同　内山茂之
公立中等學校教諭　里見悟郎
任關東州公立中等學校教諭
敍高等官六等

（各通）同　藤谷東四郎
同　外河武夫
同　袖澗彌四郎
同　高山正

任關東州公立中等學校教諭　和田文治郎
敍高等官七等

任樺太醫學專門學校教授　佐藤五郎
敍高等官五等

任樺太醫學專門學校教授　加藤靜一
敍高等官六等

任樺太醫學專門學校教授
敍高等官七等

兼任樺太青年師範學校長　上田光曦
敍高等官三等

樺太師範學校教授兼
樺太師範學校教諭　奥山大慶
任樺太青年師範學校教授兼樺太師範學校教
授兼樺太師範學
校教諭如故
敍高等官六等

任地方事務官　地方技師　宮嶋恒平
敍高等官六等

岐阜縣屬　塚原教良
同　小島賢
川出久一

（各通）
任地方事務官
敍高等官八等

任地方警視　地方消防司令　佐藤政古
敍高等官六等

任地方消防司令　大阪府消防士　笠井義人
敍高等官七等

京都帝國大學助教授　安部卓爾
公立專門學校教授＝任ス
高等官三等ヲ以テ待遇セラル

公立專門學校教授＝任ス　山崎次男
高等官六等ヲ以テ待遇セラル

（各通）
京都府立京都
農林學校教諭　小田丙午郎
上田武

公立專門學校教授兼公立大學豫科教授＝任
ス　橋本元二郎
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

公立專門學校教授＝任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

公立專門學校生徒主事兼公立專門學校教授
＝任ス　佐藤庸男
高等官四等ヲ以テ待遇セラル

公立中等學校教諭　金丸厚三郎
公立中等學校長＝任ス
高等官四等ヲ以テ待遇セラル

公立專門學校教授　荒木直
公立中等學校長＝兼任ス
高等官四等ヲ以テ待遇セラル

公立中等學校教諭　中村正身
公立中等學校教諭兼
公立中等學校舍監　湯田實
（各通）
公立中等學校長＝任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル

同　太田胤正
公立中等學校長＝任ス
高等官六等ヲ以テ待遇セラル

京都府立京都第三中學校教諭　平井靖一
京都府立京都第三中學校教諭　中島金二
兵庫縣立加古川中學校教諭　柳五一
兵庫縣立第一神
戸工業學校教諭　芝辻清一

同　佐伯幸雄
兵庫縣立尼崎工業學校教諭　有馬政二
滋賀縣立膳所中學校教諭　岡部修
滋賀縣立八幡高等女學校教諭　藤村芳藏
同　西谷愛
滋賀縣立大津高等女學校教諭　關誠三
滋賀縣立長濱商業學校教諭　中川哲夫
滋賀縣立彦根工業學校教諭　西村浅次
滋賀縣立彦根中學校教諭　茂木一二

（各通）
和歌山縣立和歌山
高等女學校教諭　竹之内喜八郎
同　木越還
山形縣立山形第二中學校教諭　高藏
同　清野清藏
山形縣立長井中學校教諭　齋藤進
山形縣立山形第二
高等女學校教諭　丸子喜一
山形縣立鶴岡高等女學校教諭　早坂安五郎
同　西川瑞國
滋賀縣立栗太農學校教諭　野々村利男
同　金澤市立工業學校教諭　沛清
富山縣立雄峰中學校教諭兼
富山縣立神武中學校教諭富　柏原一郎
山縣立富山夜間中學校教諭
島根縣立松江第
一工業學校教諭　栗間久
同　小笠原實
公立中等學校教諭＝任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

京都府立盲學校教諭　石井清彦
公立盲學校教諭＝任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

同　伊藤れん
公立盲學校教諭＝任ス
高等官八等ヲ以テ待遇セラル

（各通）
國民學校長　二階堂誠一
同　那司輪市郎
公立青年學校長＝任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル

同　遠藤菊次郎
公立青年學校長＝任ス
高等官六等ヲ以テ待遇セラル

山形縣立青
年學校長　佐藤哲夫　同
公立青年學校教諭　今野設　同
同　稲葉樂　同
同　菊地武庸　同
同　長八郎　同
同　横尾季吉　同
同　金澤富三郎　同
同　小出茂　同
同　近藤貢　同
同　齋藤太郎　同
同　五十嵐新治　同
同　佐藤米繁　同
同　鶴治郎　同
同　龍藏　同
（各通）
和歌山公立青年學校長兼
和歌山公立青年學校教諭　晉無定三　同
宮崎縣公立青年學校教諭　羽夫灘壽平　同
兼宮崎縣公立青年學校長　蕉野英一　同
同　小川彖之助　同
公立青年學校長＝任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル　宮崎縣公立青年學校長兼宮崎縣公立青年學校助教諭　後藤正

同　浦郁郎
同　太地常路
同　幡井榮
同　松本亨
同　大山仲吉
同　森巖

（各通）
宮崎縣公立青年學校教諭　興梠益藏
宮崎縣公立青年學校教諭
兼宮崎縣公立青年學校長　杉山金由
宮崎縣公立青年學校長兼
宮崎縣公立青年學校教諭　中邑義市
宮崎縣公立青年學校教諭
兼宮崎縣公立青年學校長　濱砂幸夫
公立青年學校長兼公立青年學校教諭＝任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル　小川五朗
奉天長沼高等女學校教諭　井上幸三
撫順中學校教諭　本溪湖中學校教諭　井崎明
（各通）
新京第二中學校教諭＝任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

錦州中學校教諭　笹原武衛
哈爾濱中學校教諭　加藤政義
（各通）
奉天第一中學校教諭＝任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

營口高等女學校教諭　芦田治雄
新京第一中學校教諭　保井克巳
（各通）
奉天第二中學校教諭＝任ス
高等官六等ヲ以テ待遇セラル

佳木斯高等女學校教諭　市川數馬
哈爾濱中學校教諭＝任ス
高等官六等ヲ以テ待遇セラル

奉天朝日高等女學校教諭　花井喜一
哈爾濱中學校教諭＝任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

奉天富士青年學校長　菅野增見
牡丹江中學校長兼牡丹江中學校教諭＝任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル

安東工業橋高等女學校教諭　吉井木榮美太
防州中學校教諭＝任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

撫順工業學校教諭　山口菊雄
新京數島高等女學校教諭＝任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル

哈爾濱中學校教諭＝任ス
奉天長沼高等女學校教諭　水田政義
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

佳木斯高等女學校教諭　山本實
（各通）
鞍山旭ケ岡高等女學校教諭
同　角田友彌
鞍山高等女學校教諭＝任ス
高等官六等ヲ以テ待遇セラル

（各通）
鞍山高等女學校教諭＝任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

同　原涉
同　吉金盛正

牡丹江高等女學校教諭　明司弘夫
四平高等女學校教諭＝任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

鞍山當磐高等女學校教諭　植栗興門
佳木斯高等女學校教諭＝任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

牡丹江中學校教諭　高橋右左武郎
營口高等女學校教諭＝任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

哈爾濱富士高等女學校教諭　貫井量省
阜新高等女學校教諭＝任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル

奉天濱連高等女學校教諭　瑚重太
北安高等女學校長兼北安高等女學校教諭＝
任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル

奉天第二中學校教諭　草部了圓
北安高等女學校教諭＝任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル

旅順師範學校教授　戸川尚
東安高等女學校長兼東安高等女學校教諭＝
任ス
高等官六等ヲ以テ待遇セラル

關東局中等學校教諭　馬場學
大連商業學校教諭＝任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

奉天第二中學校教諭　山浦伊一
奉天工業學校教諭＝任ス
高等官六等ヲ以テ待遇セラル

奉天工業學校教諭　渡部隆志
撫順工業學校教諭＝任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル

奉天大和高等女學校教諭　古谷野又三郎
撫順工業學校教諭＝任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

關東局中等學校教諭　大井潔
遼陽工業學校長兼遼陽工業學校教諭遼陽商
業學校長＝任ス
高等官五等ヲ以テ待遇セラル

遼陽商業學校長兼
遼陽商業學校教諭　河田耕平
陸軍司政官　石田實　同　高尾卯平
（各通）同　白壁信一　同　松永金一郎
同　黑澤守　陸軍技師　松島正義
同　中村耀　同　末次幸雄

奉天富士青年學校長＝任ス
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

鶴立在滿國民學校長兼
綏濱在滿國民學校訓導　稲毛健治
高等官七等ヲ以テ待遇セラル

陸軍司政長官　小栗一雄
依願免本官
（各通）
名古屋工業經營
專門學校教授　小原亀太郎
軍需技師　弘山尚直
勅任官ヲ以テ待遇セラル

內閣統計局統計官　林壽
統計局勞働課兼統計局第一製表課勤務ヲ
命ス
（各通）
農商書記官　木村武
大東亞省調査官　黄田多喜夫
情報局情報官被仰付
技術院參技官　村越司
技術院總務部調査課長ヲ命ス
（各通）
大藏事務官　酒井俊彦　同
（通）同　西原直廉　同　冠木四郎
同　橋本龍伍　篠塚繁

大藏事務官　忠佐市
司稅官　松本孝一
（各通）
陸軍司政官　石田實　同　高尾卯平
（各通）同　白壁信一　同　松永金一郎
同　黑澤守　陸軍技師　松島正義
同　中村耀　同　末次幸雄

大藏事務官　古川汎慶
大藏技師　大石宗知清
同　同　武樋寅三郎
財務局書記官　柴田主稅
財務局技師

陸軍司政官　玉眞鎭元　同　德永秀夫
（各通）同　久米武文　同　横田道三
（通）陸軍技師　近藤信興　同　林信治
同　古河順治

陸軍司政官　石田實　同　高尾卯平
（各通）同　白壁信一　同　松永金一郎
同　黑澤守　陸軍技師　松島正義
同　中村耀　同　末次幸雄

陸軍司政官 大島靖 同 小笠原幸雄
（各）同 高橋俊英 同 並木平治
（通）陸軍技師 後町德太郎 同 和田清隆
同 陸軍通譯官 片山勝 同 秋光侑次
陞敍高等官五等 中島正男

兼補「ビルマ」國在勤帝國大使館附武官 陸軍少將 一田次郎
同 村磯武亮
免兼「ビルマ」國在勤帝國大使館附武官 檢事 茂見義勝
陞敍高等官三等 東京商科大學附屬商學專門部教授 黑羽英男
同 同 山田和男
同 同 山城章
同 同 片野一郎

文官分限令第三條第一項第三號ニ依リ本官ヲ免ス 藤見睦治
依願免本官 岐阜師範學校教授
（各通） 大使館調査官 福田信一
同 同 城戸旭

陞敍高等官四等 大使館三等書記官 佐藤日史
同 同領事 佐藤清治
（各通） 副領事 岡本靜崎人
同 大東亞省警視 鈴木準雄
同 大東亞技師 小長谷亮作

陞敍高等官五等 西奈甚太郎
文官分限令第三條第二項第三號ニ依リ本官ヲ免ス 横山正幸
佛領印度支那派遣特命全權大使 被仰付
佛領印度支那派遣特命全權大使隨員 免正憲
補軍需省軍需官 陸軍主計少佐 佐藤
兼補軍需省軍需官軍需省軍需監理官 海軍大佐 米澤市太郎
臺灣總督府視學官兼 臺灣總督府編修官 後藤義光
免本官專任臺灣總督府編修官 臺灣總督府師範學校教諭兼 臺灣總督府師範學校教授 岩政信夫
（各通） 臺灣總督府師範學校教授 濱田隼雄

免本官專任臺灣總督府師範學校教授 大澤文次郎
同 日野原芳三郎 笹目廣介
同 塙秀胤 小川莊三郎
同 小川壯 山形竹男
同 阿内唯市郎 池永保雄
同 東常彥 坂本榮
同 入江修市 塚本秀雄
同 曳樓芳之助 磯野秀雄
同 杉山勘次郎 田中守三郎
同 丹内清 原田孝壽
同 大曾根玉之介 飯田菊雄
同 渡邊四郎 小室常幸
同 平山彌三郎 寺門準一
同 宮本源四郎 武井濱三郎
同 佐藤博 寺本仁
同 倉田健藏 出口季尚
同 中山忠太郎 曾原誓一
同 土井亮三 藤田史郎
同 岡本壽雄 服部大定
同 樋口寅治 山本國太郎
同 濱田中 宇佐美松太郎
同 行森彥四郎 稻葉慶次郎
同 閒賀田健雄 山本寬三郎
同 琢爾 檜垣兵市
同 玄一 水野寅一
同 伊達淳一 池田清美
同 森田亨 藤原勵造
同 伊達雅信 國速夫
同 門田政行 松井英之助
同 津田逵二 小林宇市
同 篠原信夫 伊達愿
同 穴迫隆登 益原敏曉
同 奧原小一義 山本逸治
同 伊藤一逵 伊達正愿
同 和田義德 定金可一
同 金谷鼎 時松勝一
同 大橋源十郎 福田寬一
同 高杉藏 神原豐
同 中村正人 大月雄
同 丹藤國 田中長三郎
同 中西春之助 渡邊孫太郎
同 庵前吉四朗 河口留八郎
同 橋川幸一郎 荻野秀郎
同 山本源之助 稻葉慶次郎
同 杉山秀藏 宇佐美松太郎
同 入內 山本國太郎
同 曳樓芳之助 服部大定
同 東常彥 藤田史郎
同 入江修市 山本寬三郎
同 塚本榮 福田寬一
同 磯野秀雄 神原勝一
同 坂本保雄 大月豐
同 田中守三郎 渡邊孫太郎
同 原田孝壽 定金可一
同 丹內清 時松正惠
同 大內 小林宇市
同 杉山勘次郎 松井英之助
同 曳樓芳之助 藤原國
同 入江修市 池田清美
同 塚本榮 檜垣兵市
同 磯野秀雄 寅一
同 坂本保雄 山本逸治
同 田中守三郎 渡邊孫太郎
同 原田孝壽 益原敏曉
同 丹內清 小林宇市
同 杉山勘次郎 伊達愿
同 曳樓芳之助 伊藤一逵
同 入江修市 小一義
同 塚本榮 奧原隆登
同 磯野秀雄 穴迫信夫
同 坂本保雄 篠原對二
同 田中守三郎 渡邊正愿
同 原田孝壽 伊達愿
同 丹內清 山本逸治
同 杉山勘次郎 三浦正愿

陞敍高等官五等 樺太廳醫院醫長兼樺太廳學專門學校教授 香西卓男
（各通） 樺太廳醫院醫長兼樺太廳學專門學校教授樺太廳醫院醫官兼樺太廳學專門學校教授 谷合三代次
同 同 横田暢允
同 同 今井隆
免本官專任樺太醫學專門學校教授 和田文治郎
樺太廳醫院醫長 佐藤靜五郎
同 樺太廳醫院醫官 加藤靜一
文官分限令第三條第一項第三號ニ依リ本官ヲ免ス 勝野武夫
（各通）地方事務官 太田省吾 同
同 同 西澤照 公立中等學校長
依願免本官 岩下資一
（各通）公立專門學校教授 加藤曾一郎 佐々木清治
同 同 三澤佐助 立石興平
同 同 藤本茂 三根桑一郎
同 同 右崎猪四一 同
陞シテ高等官三等ヲ以テ待遇セラル 中村大三郎 案本謹之助
公立專門學校教授 同 同
同 同 花井基 金藏
同 同 江村晉 濱田
同 公立中等學校長 同
同 同 佐藤速男 青年學校長 公立
同 同 城田五平 新藏 同
陞シテ高等官四等ヲ以テ待遇セラル 同 同
公立專門學校教授 同 同
同 同 榊原安造 同 宇都宮誠太郎
同 同 佐藤速男 同 吉原鐵治
同 同 城田五平 新藏 田中和佑
同 同 佐藤速男 學校長 中村三喜之助
同 同 佐藤速男 同 石橋所靜一
同 同 佐藤速男 同 築山欽治
同 同 佐藤速男 同 柏塚宇田善次郎
同 同 佐藤速男 同 入江幾治郎
同 同 佐藤速男 同 宮本康彥
同 同 佐藤速男 同 赤羽廣志郎
同 同 佐藤速男 同 宮本康彥
同 同 佐藤速男 同 栗田卓士
同 同 佐藤速男 同 江崎英一
同 同 佐藤速男 同 鈴木金作
同 同 佐藤速男 同 木村芳三郎
同 同 佐藤速男 同 赤羽廣志郎
同 同 佐藤速男 同 宮本康彥
同 同 佐藤速男 同 鎌田正忠
同 同 佐藤速男 同 竹原八郎
同 同 佐藤速男 同 伊藤靜衛
同 同 佐藤速男 同 佐藤五郎
同 同 佐藤速男 同 加藤靜一
同 同 佐藤速男 同 横田暢允
同 同 佐藤速男 同 谷合三代次
同 同 佐藤速男 同 卓男
同 同 佐藤速男 同 上田文治郎
同 同 佐藤速男 同 和田文治郎
同 同 佐藤速男 同 今井隆

故外務省調査官正五位　堀口　公一
特旨ヲ以テ位一級追陞セラル（十三日宮內省）
宮內事務官　金万小三郎
陞敍高等官五等
賜五級俸但シ年俸三千百圓
依願免本官
賀陽宮附宮內事務官事務取扱ヲ命ス　別當　稻葉　四郎
故子爵松平保男家督相續人　松平　保定
（各通）故男爵山川建家督相續人　從五位　山川　健重
故男爵山中秀二郎家督相續人　山中　信博
襲爵被仰付（以上十三日同）
（各通）同　外務書記官　吉岡　範武
賜一級俸　同　門脇　季光
賜一級俸　公使館一等書記官　早尾　季鷹
瑞西國在勤ヲ命ス
（各通）外務大臣秘書官　友田　二郎
大使館商務書記官　齋田　藤吉
賜一俸級　同　田中　耕作
賜三級俸　大使館三等書記官　足羽憲太郎
賜三級俸
獨國在勤ヲ命ス
（各通）外交官補　小高　典
同　下田　吉人
賜三級俸　公使館二等通譯官　尾崎　義
賜一級俸
瑞典國在勤ヲ命ス　公使館理事官　竹中　三郎
賜七級俸
「フィンランド」國在勤ヲ命ス（以上十八年十二月三十一日外務省）
四級俸下賜（十三日內務省）　地方技師　伊藤　隣一
警視廳警視　田中　作哉
八級俸下賜
警務部勤務ヲ命ス　地方事務官　井原　修彥
八級俸下賜　〃　公一
佐賀縣勤務ヲ命ス　地方警視　八十島雅雄
十級俸下賜
富山縣警察部勤務ヲ命ス　地方技師　大西　幾馬
長崎縣勤務ヲ命ス　同　今井　徹郎
十級俸下賜
山梨縣勤務ヲ命ス　同　大賀　正男
岐阜縣勤務ヲ命ス　同　栗原　吉雄
愛媛縣勤務ヲ命ス（以上十三日同）
樺太廳中央試驗所技師　山田　桂輔
一級俸下賜　樺太廳中等學校長　瓜田　友衛
二級俸下賜　樺太廳事務官　古閑　正之
（各通）樺太廳中等學校長　林　章
三級俸下賜　樺太公立中等學校教諭　宮城　助三
四級俸下賜　樺太師範學校教授　新藤　甚藏
（各通）樺太廳中等學校長　中里　重世
樺太廳中等學校教諭　加藤　廣造
同　飯田　貞己
五級俸下賜　樺太廳書記官　栗山　松一
樺太廳事務官　尾崎　與作
同　坂根　輝夫
樺太廳技師　馬屋原　敬吾
同　小川　盛
樺太廳中等學校長　八島　與信
樺太廳中等學校教諭　山口　德平
同　石綿　庸
（各通）
六級俸下賜　樺太師範學校教授　貝塚　良雄
（各通）樺太廳技師　工藤　誠
七級俸下賜　樺太廳技師　市川　正
（各通）同　富井　敬二
同　船木　義松
樺太廳中央試驗所技師　宮本　昌夫
八級俸下賜
九級俸下賜　同　內務技師　池田　雄二
中部土木出張所勤務ヲ命ス（以上十三日同）
（各通）大藏書記官　島本　融
同　今井　一男
二級俸下賜　造幣局醫官　伊藤　久榮
一級俸下賜
年俸六百圓加賜
造幣局總務部勤務ヲ命ス　同　桑波田秀枝
一級俸下賜
造幣局總務部勤務ヲ命ス　同　富永　貢
三級俸下賜
造幣局東京支局勤務ヲ命ス　同　小松　宏吉
四級俸下賜
造幣局總務部勤務ヲ命ス　同　栗飯原和美
五級俸下賜
造幣局總務部勤務ヲ命ス　同　山本　富男
七級俸下賜
造幣局總務部勤務ヲ命ス　同　福田　暉勝
八級俸下賜
造幣局東京支局勤務ヲ命ス　印刷局理事　上條　勇
一級俸下賜
印刷局業務部長ヲ命ス　印刷局業務部業務課長事務取扱ヲ命ス　印刷局技監　矢野　道也
一級俸下賜
年俸六百圓加賜
印刷局技監室勤務兼印刷局研究所長ヲ命ス　印刷局醫官　市古　鈞一
一級俸下賜
印刷局病院長ヲ命ス　同　村田三千彥
（各通）同　山本菊三郎
同　佐藤　保雄
四級俸下賜
印刷局病院勤務ヲ命ス　（各醫官）印刷局　菊池　正清
（通同）　同　早川　優
五級俸下賜　同　小名木正夫
印刷局病院勤務ヲ命ス　同　原田　彰
（各通）　同　齋藤　英雄
六級俸下賜　印刷局醫官　原田　重則
印刷局病院勤務ヲ命ス　同　澤　潤一
（各通）同　春原新太郎
七級俸下賜　同　綾部　松次
印刷局病院勤務ヲ命ス　專賣局技師　吉田　繁男
八級俸下賜
大阪地方專賣局在勤ヲ命ス　專賣局醫官　藤森　雄平
（各通）同　當吉　剛太
同　田實　三良
一級俸下賜
專賣局長官官房勤務ヲ命ス　同　段野　博之
（各通）同　前原　武彥
二級俸下賜
專賣局長官官房勤務ヲ命ス　同　野畑松二郎
三級俸下賜
專賣局長官官房勤務ヲ命ス　同　井出　六郎
六級俸下賜
專賣局長官官房勤務ヲ命ス　同　溝口　周策
一級俸下賜
東京地方專賣局在勤ヲ命ス　同　廣瀨　巍
（各通）同　川田　稔
二級俸下賜　同　三浦　元
東京地方專賣局在勤ヲ命ス　同　野畑松二郎
七級俸下賜
東京地方專賣局在勤ヲ命ス　同　富久田又三郎
（各通）同　元田　弘毅
一級俸下賜
水戶地方專賣局在勤ヲ命ス

二級俸下賜　同　秋田　勉
水戶地方專賣局在勤ヲ命ス
七級俸下賜　同　船坂小一郎
水戶地方專賣局在勤ヲ命ス
（各通）同　上田　耕作
一級俸下賜　同　鬼澤　三郎
仙臺地方專賣局在勤ヲ命ス
八級俸下賜　同　梅津　獅雄
仙臺地方專賣局在勤ヲ命ス
一級俸下賜　同　淺川賢一郎
名古屋地方專賣局在勤ヲ命ス
二級俸下賜　同　前田　功
金澤地方專賣局在勤ヲ命ス
一級俸下賜　同　吉田　豐太
大阪地方專賣局在勤ヲ命ス
二級俸下賜　同　河野　勉
大阪地方專賣局在勤ヲ命ス
七級俸下賜　同　青井　信尙
大阪地方專賣局在勤ヲ命ス
一級俸下賜　同　中村　種一
廣島地方專賣局在勤ヲ命ス
二級俸下賜　同　佐々木　喬
廣島地方專賣局在勤ヲ命ス
一級俸下賜　同　仁木　秀臣
高松地方專賣局在勤ヲ命ス
一級俸下賜　同　村上　英男
熊本地方專賣局在勤ヲ命ス
三級俸下賜　同　工藤　楠樹
熊本地方專賣局在勤ヲ命ス
二級俸下賜　同　吉牟田　實
鹿兒島地方專賣局在勤ヲ命ス
八級俸下賜　同　鬼塚　正憲
鹿兒島地方專賣局在勤ヲ命ス
造幣局書記官　萩原　虎雄
造幣局東京支局長ヲ命ス
（各通）造幣局事務官　浦橋　秋津
同　造幣局事務官　星野　亨三
造幣局總務部勤務ヲ命ス
印刷局事務官　生越辨之輔
印刷局庶務課勤務ヲ命ス
同　松村壽太郎
印刷局經理部勤務ヲ命ス
同　田麥　傳
印刷局勞務部福利課長ヲ命ス
印刷局抄紙部及印刷局青年修練所兼務ヲ命ス　同　渡邊　隆
印刷局業務部發行課長ヲ命ス　同　三宅　泰造
印刷局業務部官報課長ヲ命ス　同　奥藤　恒
香港及九龍半島駐在ヲ命ス　專賣局書記官　阿部　正二
專賣局鹽腦部鹽腦第一課長ヲ命ス　吉橋　鐸美
專賣局鹽腦部鹽腦第二課長ヲ命ス　川崎　初三
專賣局經理部資材課長兼專賣局經理部會計課長ヲ命ス　專賣局技師　上林　忠次
專賣局煙草事業部煙草技術課長ヲ命ス　田中　大藏
專賣局秦野試驗場長ヲ命ス　中村　壽夫
（各通）專賣局秦野試驗場　大熊規矩男
專賣局秦野試驗場在勤ヲ命ス　國分　貞雄
專賣局秦野試驗場在勤專賣局中央研究所兼勤ヲ命ス　石戶谷賢慥
專賣局鹿兒島試驗場長ヲ命ス　塩谷　明雄
專賣局鹿兒島試驗場兼勤ヲ命ス　川原田　博
專賣局鹿兒島試驗場兼勤ヲ命ス　仁藤　武雄
東京地方專賣局在勤ヲ命ス
名古屋地方專賣局在勤ヲ命ス　同　西山　祥二
專賣局技手　北島　正榮
專賣局鹽腦部兼務ヲ命ス（以上十三日大藏省）
國民學校長　幾平　仁木
（各）西原　武夫　六郎
（通）三浦　小笠　桑原　如平
三宅　敬一　板東　亮三
四郎
德島縣國民學校長ニ補ス
國民學校長　石川　卯吉　神崎　宇作
（各）柴田　貞範　川淵　正範　鳥居　清吉
（通）朝田　秋次　乙武　信和　高橋　都榮
香川縣國民學校長ニ補ス
國民學校長　池田　茂　八塚　高義
（各）佐野　諸惠　稻月　博位　山本　福一
（通）加藤　道雄　下室　恒雄　中越長次郎
林　若松
愛媛縣國民學校長ニ補ス
國民學校長　岡本　正孝
（各）田村　兼重　國則　慶馬
（通）川窪　泉　吉永　弘壽
高知縣國民學校長ニ補ス　桑名　茂喜
國民學校長　柳井　輔義
山城　熊吉　大野　泰助
戶根　歲彥　俣野　正路
吉田　頴穗　原田　高次郎
川上　平次郎　伊豆　利一
高橋　宅次　瀧下　勇造
（各）磯野　村男　高橋　八郎　林田　一重
（通）田中　耕介　大淵　淑郎　辰藏　喜藏
石井　小山田　一郎　米田　利一　庄山　冨士松
村口　久路　小川　香見　大田
福岡縣國民學校長ニ補ス
國民學校長　工藤　進　峰尾　直　悟
（各）桑野　本田　智正　安東　立川　岩雄　工藤　貫一
（通）汐月　杉野　梅男　健介　宗像　渡邊　恒夫　完　佐藤　吉良　勝榮　嚴　幸　八郎　一司
大分縣國民學校長ニ補ス
國民學校長　坂本　光雄　中村　良策
近藤　進道　渡邊　吉作　松尾
（各）野田　享一郎　春男　宮田　貫一　中關　吉田　博行
（通）佐賀縣國民學校長ニ補ス　久留間清次　藤田　宅麿
國民學校長　宮川專之助　原賀　眞直　古澤　國廣
浦部　光次　中山　季雄　大橋　秋勇
（各）村上　義之　土肥　昌雄　高本　義彥
（通）宮邊　嘉八　浦壁　安男　木田　政敏
上野　松藏　井上　清八　香山　薰
松崎　弘治　平田　康雄　岩坂九十九
熊本縣國民學校長ニ補ス
國民學校長　山田　秀記　太田福太郎　千田　登
（各）遠藤　龍雄　楠元　市雄　神尊　雅量
（通）橫山　新一
宮崎縣國民學校長ニ補ス
國民學校長　伊集院兼祥　竹下直宜見　福元　實德
土元　武敏　中村　龜吉　久米　順藏
二木　半二　阿萬　保　東鄕　豐次
（各）榎園　平嶺　勇　新原　清美
（通）中原　義德　坂本　進　池田　琢磨
神川　治重　松下　多　白石仲兵衛
瀧　盛藏　高田　益忠　本田　榮碩
純俊　柏　淮榮　永喜　仲清
築島　養秋　古村　安治
鹿兒島縣國民學校長ニ補ス
國民學校訓導　桑島　正　工藤由太郎
（各）高畑　秀吉　井田　俊末　棟方　松衞　蝦名　靜一
（通）小尾崎　清治　小野　黃　坪谷治三郎
小室　吉助　安田　章
北海道國民學校教頭ニ補ス
國民學校訓導　田中善一郎　齊井　群治
山本　滋　加藤鎌太郎　村山啓太郎
鈴木　英吉　高橋和一郎
佐藤　閶　經藏　荒木　喜平　柿內　義雄
山木　中村　憲二　浦邊　隆允
茅野喜三郎　野田市五郎　後藤　基彥
長田　要人　矢野　耕一　上田　平作
羽山　淳　矢島　貫一　竹ノ谷正朔
三上　隼三　鈴木　雄三　坂本久次郎
高石　三思　橋本　武次　大家　基弘
（各）山崎　卯吉　大木　友治　丸山　幸一
（通）笠　常樹　菊池　健二　星野茅三郎
黑澤　金藏　滝澤　春太　伊藤　茂
黑川延太郎　秋見　耕一　西川　千秋
永野　賢美　長井　幸一

四條　永治　秋山　申一　荻原　英重
東京都國民學校教頭ニ補ス
國民學校訓導
（各）津田　信吉　岸本　利雄　小野田善太郎
（通）宮中　常磐　三浦　金藏　大友　鑒
京都府國民學校教頭ニ補ス
國民學校訓導
竹内　綱造　加藤　吉藏　藤田　廣作
中村　榮清　福森　晴清
吉田　政一　東湖　良正　足立　貞一
興座　嘉剛　竹田順治郎　田中　俊司
西田　保彦　金子　義秋　安井　元義
近藤　義雄　淺田　一夫　松政　治一
（各）望月　禮眞　榊原　駿一　鳩中　鹿次郎
（通）山中　敬孝　喜田　悅治　吉川　清孝
宇都宮　愛明　行松　榮治　渡邊正亮
大谷　大　河村　保英　田畑　爲治
山根　戒三　平井　富男　辻原　靜影
西　準吉　住吉　楢男　佃　喜平次
笹川　俊治　太田　好勇　中村　市郎
亀岡　勉　山下　重雄　柳瀬　威雄
松尾　凱麿　奥野　重利　西川　征夫
大阪府國民學校教頭ニ補ス（以上三月十文部省）　田中　成行
高岡高等商業學校教授　細野日出男
賜四級俸（十四日同）
高岡高等商業學校書記　加須屋義喜
三級俸下賜　東京高等師範學校訓導　佐々木由子
四級俸下賜　横濱高等商業學校教授　岡田　峻
六級俸下賜
（各通）長崎高等商業學校生徒主事　吉川　二郎
長崎高等工業學校教授　森田　清
八級俸下賜（以上十三日同）
大使館調査官　佐治　謙讓
賜二級俸
中華民國在勤ヲ命ス（十五日）大東亞省）
大内球三郎　本田　增藏　安藤　明道
（各）（通）太宰　正伍　立花　定
南方開發金庫理事ヲ命ス
（各通）太田嘉太郎　裏松　友光
子爵
南方開發金庫監事ヲ命ス（以上十四日同）

農商書記官　原田　傳
總務局勤務ヲ命ス（十四日）農商省）
同　齋藤　大助
一級俸下賜　同　細川　良平
二級俸下賜　同　石井　幸二
三級俸下賜　農商事務官　岡本　貞良
四級俸下賜　同　宮下　一郎
五級俸下賜　同　堀合　道三
六級俸下賜　同　丸山　文雄
九級俸下賜　農商理事官　澁谷　榮一
（各通）同　河井大治郎
四級俸下賜　同　平木　桂
六級俸下賜　同　遠山　長雄
七級俸下賜　農商省物價事務官　兼坂　隆一
四級俸下賜　田原　五郎
六級俸下賜　同　渡部　光明
（各通）同　二宮　理善
七級俸下賜　横川　五郎
八級俸下賜　同　光男
（各通）同　玉野　嘉信
四級俸下賜　農商技師
（各）師　農商技　古川　康
（通）同　油谷　義圀
同　小平　光雄
七級俸下賜　農商技　加藤　要
（各）師　同　原間　新作
（通）同　長山　正
同　白須　二琅
八級俸下賜　同　井上新一郎
九級俸下賜　農商技師子爵　鍋島　直紹

十級俸下賜　農商技師　野澤　久雄
五級俸下賜　馬政局理事官　伊東　孝七
（各通）同　馬政局技師　平塚佐久二
八級俸下賜　池内　武夫
食糧管理局理事官　曾我　徹一
四級俸下賜　食糧管理局技師　表　聰悟
（各通）同　增田　俊明
八級俸下賜　農事試驗場技師　寺尾　博
賜二級俸　同　馬場　赳
八級俸下賜　同　八柳　三郎
（各通）同　中村　輝雄
八級俸下賜　同　鏑木　豪夫
九級俸下賜　同　原田登五郎
十級俸下賜　園藝試驗場技師　梶浦　實
六級俸下賜　種羊場技師　川俣猪十郎
八級俸下賜　獸疫調査所技師　河島　俊一
（各通）營林局事務官　加賀美直明
七級俸下賜　營林局技師　小幡　進
八級俸下賜　同　山田　昌一
九級俸下賜　營林署技師　鈴木　清香
五級俸下賜　同　簑浦　晋
（各通）同　竹内義三郎
六級俸下賜　同　市原彌太郎
（各通）同　杉原　定衛
七級俸下賜　營林署　進藤　正人
（各）技師　同
（通）同　淡谷　忠一
八級俸下賜　小川　重年
同　鎭西　眞鄕

（各通）
九級俸下賜　營林署技師　久保田彦三
十級俸下賜　同　阿部　義賢
同　堀内　雍喜
同　森高　公人
營林署山林事務官　菱沼　昇
六級俸下賜　林業試驗場技師　內田　憲
八級俸下賜　水產講習所教授　殖田　三郎
五級俸下賜　同　稻葉傳三郎
八級俸下賜　水產試驗場技師　木村金太郎
（各通）同　中野　宗治
一級俸下賜　同　右田　正男
四級俸下賜　同　栗田　晋
（各通）同　谷井　潔
八級俸下賜　同　花岡　資
工藝指導所技師　豐口　克平
七級俸下賜　同　安倍　郁二
八級俸下賜　種馬牧場技師　中村　悟朗
十級俸下賜　種馬育成所技師　佐久山德次郎
一級俸下賜　同　田中　豐
八級俸下賜　種馬所技師　關　毅一
九級俸下賜　同　篠原　圭介
馬事研究所技師　長畑壽賀雄
五級俸下賜（以上十三日同）
遞信局保健技師　上田　義衛
（各通）同　三角　季雄
熊本遞信局在勤ヲ命ス（十四日）運輸通信省）
八級俸下賜　通信院事務官　山村助太郎
廣島貯金支局長ヲ命ス

京都貯金支局長ヲ命ス（以上十三日同）
遞信局書記官　加藤　桂一
新潟遞信局貯蓄部長兼務ヲ命ス
同　大塚　茂
仙臺遞信局貯蓄部長兼務ヲ命ス
遞信局事務官　伊賀　憲治
豐原遞信局總務課長兼務ヲ命ス
通信事務官　平岡弘一郎
東京豐島電話局長ヲ命ス
通信技師　黑田憲次郎
東京大森電話局長ヲ命ス
同　有竹　秀一
東京無線電氣通信工事局長ヲ命ス
同　磯木　清一
札幌無線電氣通信工事局長ヲ命ス
通信院事務官　西　利一
東京貯金支局第二貯金課長ヲ命ス
同　北畠　道茂
東京貯金支局第二貯金課長兼務ヲ免ス（以上十四日同）
會計檢査院書記官　大澤　實
院長官房總務科勤務ヲ命ス
普通試驗委員ヲ免ス
文官普通懲戒委員會委員ヲ免ス
官報報告及統計主任ヲ免ス
同　田邊六三四
院長官房總務科兼務ヲ命ス
同　中川　薫
院長官房調査科兼務ヲ命ス
同　池田　修藏
普通試驗委員ヲ命ス
文官普通懲戒委員會委員ヲ命ス
官報報告及統計主任ヲ命ス
賜七級俸（以上十三日會計檢査院）
公立中等學校教諭　宮本　清
五級俸百五拾圓下賜
同　奥田　保治
七級俸百六拾圓下賜（以上二月十七日奈良縣）
當分千九千五

彙報

○官廳事項

◉**印刷局分課規程中改正**　大藏省ニ於テハ今般印刷局分課規程中左ノ通改正シ本月一日ヨリ之ヲ施行セリ

第一條中「業務部」ノ下ニ「技監室」ヲ加フ
第三條中「經理部ニ」ノ下ニ「於テハ經理全般ニ關スル事務ヲ掌リ部ニヲ加フ
第六條中「勞務部ニ」ノ下ニ「於テハ勞務全般ニ關スル事務ヲ掌リ部ニヲ加フ
第九條中「業務部ニ」ノ下ニ「於テハ業務全般ニ關スル事務ヲ掌リ部ニヲ加フ
第十二條ノ二　技監室ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　技術ノ指導連絡統制ニ關スル事項
二　作業考査ニ關スル事項
第十三條中「圖書印刷部ニ」ノ下ニ「於テハ圖書印刷作業全般ノ綜合運營ニ關スル事務ヲ掌リ部ニヲ加フ
第十六條中「證券印刷部ニ」ニノ下ニ「於テハ證券印刷作業全般ノ綜合運營ニ關スル事務ヲ掌リ部ニヲ加フ
第二十三條中「抄紙部ニ」ノ下ニ「抄紙作業全般ノ綜合運營ニ關スル事務ヲ掌リ部ニヲ加フ
第三十三條中第二號ヲ削リ第三號ヲ第二號トス

◉**軍需省分課規程中改正**　軍需省分課規程中左ノ通改正シ本月一日ヨリ施行セリ
第四十六條中「酒精部」ヲ「醱酵工業部」ニ改ム
第五十六條　醱酵工業部業務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　官營工場ニ於ケル醱酵製品及其ノ誘導體ノ生產及配給ニ關スル事項
二　アルコールノ專賣ニ關スル事項
三　エーテルノ生產及配給ニ關スル事項
第五十七條　醱酵工業部製造課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　醱酵製品及其ノ誘導體ノ生產技術ニ關スル事項
二　官營工場ノ運營及管理ニ關スル事項
三　醱酵研究所ニ關スル事項
第五十八條　電力局ニ業務課、計畫課、需給課及施設課ヲ置ク
第五十九條　電力局業務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　電力ニ關スル綜合事務ニ關スル事項
二　電氣事業ノ業務及會計監督ニ關スル事項
三　電力料金ニ關スル事項
四　電氣測定器ノ檢定ニ關スル事項
五　電氣ニ關スル公益法人ノ監督ニ關スル事項
六　電氣工事業ノ取締ニ關スル事項
七　電氣統計ニ關スル事項
八　他課ノ主掌ニ屬セザル事項
第六十條　電力局計畫課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　發送電豫定計畫ニ關スル事項
二　電力設備ノ建設及變更ニ關スル計畫及命令ニ關スル事項
三　發電水力使用ニ關スル事項
四　發電水力調査ニ關スル事項
第六十一條　電力局需給課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　電力調整令ノ施行ニ關スル事項（電力料金ニ關スルモノヲ除ク）
二　電力動員計畫ニ關スル事項
三　發電用石炭ノ取得ニ關スル事項
四　電力ノ配給ニ關スル事項
五　電力使用ノ合理化ニ關スル事項
第六十二條　電力局施設課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　電力施設ノ監督ニ關スル事項
二　電力施設ノ運營ノ合理化ニ關スル事項
三　電力施設ノ職時規格ニ關スル事項
四　電氣用品ノ取締ニ關スル事項
五　保安通信用電話ニ關スル事項
第六十三條及第六十四條ヲ削ル

◉**廳舍移轉**　帝室會計審査局ハ去月二十日東京都四谷區內藤町十一番地新宿御苑內ニ移轉セリ

◉**在本邦滿洲國大使館書記官離任**　在本邦滿洲國大使館二等書記官藤田久一ハ今般離任セル旨同國大使ヨリ去月二十三日附書翰ヲ以テ通知アリタリ

◉**在本邦伊太利社會共和國代理大使任命**　今般在本邦伊太利社會共和國政府利益臨時代表オメロ（プリンチピー）ニ（Colonel Omero Principi）ハ在本邦同國代理大使ニ任命セラレタル旨去月二十六日附口上書ヲ以テ同代表ヨリ通告アリタリ

◉**在本邦瑞典國公使館書記官陞任**　在本邦瑞典國公使館書記官エリック、ド、シドウハ去月二十四日附ヲ以テ公使館一等書記官ニ陞任セル旨同國公使ヨリ同二十五日附書翰ヲ以テ通知アリタリ

◉**應聘**　判事久禮田益喜ハ許可ヲ得テ去月三十一日在官ノ儘中華民國國民政府司法行政部法規編修委員會顧問トシテ中華民國國民政府ニ聘用セラレタリ

◉**廢官**　神宮皇學館書記北出鎭吉ハ神宮皇學館官制廢止ニ依リ本月一日廢官ト爲レリ

◉**任期滿了**　南方開發金庫總裁佐々木議一郎同副總裁武井理三郎同理事大內球三郎同太田增藏同安藤明道同太宰正伍同立花定同監事太田嘉太郎同子爵裏松友光ハ孰モ去月二十九日任期滿了セリ

◉**官吏死去**　氣象技師正七位杵島磨ハ本年一月四日同從六位高山四郎ハ去月十二日孰モ死去セリ

◉**神職死去**　兵庫縣有馬郡三田町縣社天滿神社社司（奏任待遇）從七位米谷傳次郎ハ去月七日死去セリ

○通運

◉**鐵道運輸營業廢止**　本年一月二十九日筑波山鋼索鐵道株式會社ニ對シ宮協、筑波山頂間運輸營業廢止ヲ許可シタル處同二月十一日之ヲ實施セル旨屆出アリタリ（運輸通信省）

廣告

◉**工場財團**

岩船郡村上本町千二百六十五番地　株式會社村上スキー工場ヨリ岩船郡村上町字上片町五百三番、五百五十四番ノ一、五百六十番ノ二、五百五十二番、五百五十三番、同郡村上本町字堀片千二百八十六番、千二百六十五番、同郡村上本町字十四番、千二百八十五番、千二百八十七番、五百八十九番三、所在ノ株式會社村上スキー工場ニ屬スル土地、工作物並ニ機械器具等ニ對シ工場財團組成ノタメ所有權保存登記ノ申請アリタルニ因リ右財團ニ屬スヘキ動產ニ付權利ヲ有スル者又ハ差押、假差押若クハ假處分ノ債權者ハ本公告掲載ノ日ヨリ三十二日ノ期間內ニ其權利ヲ當廳ニ申出ツヘシ

但シ工場財團ニ屬スヘキモノ、目錄ハ當廳ニ備付アリ關係者ノ閱覽ニ供ス

昭和十九年四月四日　村上區裁判所

◉**破產手續終結**

破產者　田島萬二郎

右ニ對スル昭和十七年（フ）第四號破產事件ニ付強制和議ニ因リ破產手續終結シタルヲ以テ公告スルコト左ノ如シ

一本件破產手續ハ終結ス

昭和十九年三月二十七日　久留米區裁判所

◉失踪ニ關スル屆出ノ催告

本籍並最後ノ住所岡山縣御津郡興城村大字上田西千七百九十七番地　不在者　片山要太郎　明治十四年十二月二十日生

右ニ對シ倉敷市老松町二百八十五番地利害關係人片山隆ヨリ失踪宣告ノ申立ヲ爲シタルニ付不在者ハ昭和十九年十月二十三日午前九時迄ニ當裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若其屆出ヲ爲サルトキハ失踪ヲ宣告スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其屆出ヲ爲スヘシ

昭和十九年三月十九日　岡山區裁判所

本籍並最後ノ住所鳥取縣東伯郡山守村大字福原百九十番二地　不在者　前見　榮藏　明治十七年三月二十二日生

右不在者ニ對シ利害關係人鎌田政春ヨリ公示催告ノ申立ヲ爲シタルニ付不在者ハ昭和十九年十月二日午前九時迄ニ當裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若其屆出ヲ爲サヽルトキハ失踪ヲ宣告スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其屆出ヲ爲スヘシ

昭和十九年三月十二日　鳥取區裁判所

本籍並最後ノ住所愛媛縣北宇和郡遊子村三千六百一番地　不在者　中川彌太八　明治四十五年五月八日生

右不在者ニ對シ利害關係人中川善太郎ヨリ失踪宣告ノ申立ヲ爲シタルニ付不在者ハ昭和十九年十一月六日午前九時迄ニ當區裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若其ノ屆出ヲ爲サヽルトキハ失踪ヲ宣告スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其ノ屆出ヲ爲スヘシ

昭和十九年三月十六日　宇和島區裁判所

本籍大阪市東淀川區豐里菅原町三番地最後ノ住所佐世保市潮見町千三百二十九番地橋口虎七方　不在者　橋口　灌雄　明治三十年五月十六日生

右不在者ニ對シ利害關係人橋口茂ヨリ失踪宣告ノ申立ヲ爲シタルニ付不在者ハ昭和十九年十月十八日午前九時迄ニ當區裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若其ノ屆出ヲ爲サヽルトキハ失踪ヲ宣告スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其ノ屆出ヲ爲スヘシ

昭和十九年三月十七日　飯塚區裁判所

本籍並最後ノ住所福島縣信夫郡野田村大字下野寺字山神前五十三番地　不在者　安齋　張良　明治二十二年四月十一日生

右不在者ニ對シ利害關係人安齋長吉ヨリ失踪宣告ノ申立ヲ爲シタルニ付不在者ハ昭和十九年十月十三日午前九時迄ニ當區裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若其ノ屆出ヲ爲サヽルトキハ失踪ヲ宣告スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其ノ屆出ヲ爲スヘシ

昭和十九年三月十一日　判事　石坂方平

本籍富山縣下新川郡宮崎村宮崎千四百八十六番地ノ一最後ノ住所樺太泊居郡泊居町大字泊居字北本町二丁目二十番地　不在者　河内助太郎　明治三十二年九月九日生

右不在者ニ對シ利害關係人河内サタヨリ失踪宣告ノ申立ヲ爲シタルニ付不在者ハ昭和十九年十一月六日午前九時迄ニ當區裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若其ノ屆出ヲ爲サヽルトキハ失踪ヲ宣告スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其ノ屆出ヲ爲スヘシ

昭和十九年三月七日　眞岡區裁判所

本籍並最後ノ住所福岡縣嘉穗郡碓井町下臼井千百六十五番地　不在者　田中　三吉　大正十四年二月二十八日生

右不在者ニ對シ福岡縣嘉穗郡碓井町下臼井千百六十五番地田中國五郎ヨリ失踪宣告ノ申立ヲ爲シタルニ付不在者ハ昭和十九年十月二十日午前九時迄ニ當裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲サヽルトキハ失踪ヲ宣告スヘク若其ノ屆出ヲ爲スヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其ノ屆出ヲ爲スヘシ

昭和十九年三月十五日　佐世保區裁判所

株式名義書換停止公告

當會社定款第十四條ニヨリ來ル四月一日ヨリ第十一回定時株主總會終了ノ日迄株式ノ名義書換ヲ停止致候

昭和十九年三月二十七日　山陰木材防腐株式會社

社名變更謹告　弊社儀昭和十九年二月十四日ヨリ左記ノ通リ社名變更致候條此段謹告仕候也

新社名　日本麻精工業株式會社

舊社名　東洋リネン株式會社

代表取締役　藤村正美

株式名義書換停止公告

昭和十九年四月一日ヨリ臨時株主總會終了後貳週間內迄株式ノ名義書換並ニ質權ニ關スル登錄ヲ停止致候

昭和十九年三月二十五日

名古屋住宅株式會社　清算人　神野金之助

株式名義書換停止公告

昭和十九年三月二十五日ヨリ臨時株主總會終了ノ日迄株式ノ名義書換及質權ノ設定、移轉並ニ抹消ノ各登錄ヲ停止ス

昭和十九年三月二十五日

愛知機帆船運送株式會社

公債償還抽籤公告

三月末日償還スヘキ本市公債ノ抽籤ヲ左記ニ依リ執行ス

一、抽籤日時　昭和十九年三月十五日午後一時

一、抽籤ノ場所　旭川市役所

一、償還スヘキ債權ノ種別

第二回旭川市公債　千圓券　參枚　五百圓券　壹枚　百圓券　壹枚

第三回旭川市公債　千圓券　貳枚　百圓券　貳枚

昭和十九年三月六日

旭川市長　足立　富

株式名義書換停止公告

來ル四月四日ヨリ臨時株主總會終了ノ日迄株式ノ名義書換ヲ停止ス

昭和十九年四月四日

丸阪印刷株式會社

公告

大阪府及千葉縣當金庫總代各壹名缺員ヲ生シタルニ付右補缺選擧ノ爲業務細則ノ規定ニ依リ來ル四月七日ヨリ同選擧終了ノ日迄同府縣內ニ於ケル農業會及產業組合ノ當金庫出資者名義書換ヲ停止ス

昭和十九年四月四日

農林中央金庫

株券御提出方ニ付御通知

神戸海上火災保險株式會社
共同火災海上保險株式會社
朝日海上火災保險株式會社
横濱火災海上保險株式會社

前記四會社ハ三月二十日合併シテ當會社ヲ設立致候就而株式交換ノタメ御所有ニ係ル右各會社ノ株券ヲ左記提出場所ヘ便宜御提出被成下度此段御通知申上候

記

一、御提出ノ期間　自昭和十九年四月五日　至昭和十九年五月三十一日

一、御提出ノ場所　大阪市東區今橋三丁目五番地　三和信託株式會社本店營業部

神戸市神戸區榮町通三丁目十四番地　神戸信託株式會社本店

東京都京橋區京橋一丁目十番地　第一信託株式會社本店

昭和十九年四月二日

大阪市東區今橋二丁目十九番地　同和火災海上保險株式會社

取締役社長　廣瀨鉞太郎

株主各位

公告

右兩社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ合併シテ新ニ大阪住友海上火災保險株式會社ヲ設立シ昭和十九年三月二十八日之ガ登記ヲ爲シタルニ付保險業法ノ規定ニ依リ此段公告候也

昭和十九年三月二十九日

大阪市東區北濱五丁目二十二番地　大阪住友海上火災保險株式會社

債權申出公告

日本證券取引所大阪市場第一種取引員岩本房吉ニ對スル債權者ニシテ同人ノ資產負債整理委員ヨリ通知ヲ受ケラレザル向ハ四月二十日迄ニ左記整理委員ヘ其ノ住所氏名及債權額御申出相成度若シ右期日迄ニ御申出無之トキハ請求權ヲ拋棄セラレタルモノトシテ處理可致此段公告候也

昭和十九年三月

大阪市東區北濱一丁目、日本證券取引所大阪支所氣付　日本證券取引所大阪市場第一種取引員　岩本房吉資產負債整理委員

(本書ノ大サハ國定規格A4判)